

自分が“世界”と出会う場所



安平町 早来地区 義務教育学校設置について

2021. 7. 16 Fri 記者会見



IEE

Institute of Educational Environment

教育環境研究所



BNK

Atelier BNK Co., Ltd



参加企業ご紹介① ～ 教育環境研究所



所長

長澤 悟 氏 (ながさわ さとる)



Institute of Educational Environment

教育環境研究所

工学博士。東洋大学名誉教授。

1948年神奈川県生まれ。1973年東京大学工学部建築学科卒業。1978年同大学院博士課程修了。

東京大学助手、日本大学講師・助教授・教授を経て、東洋大学理工学部教授。2014年より名誉教授。国立教育政策研究所客員研究員。

1988年より教育環境研究所所長。

専門は建築計画学。研究と同時に、教職員・地域の人々と話し合いを重ねながら、教育方法の多様化と教育空間、学校と地域の連携、木の建築等をテーマに、全国の学校づくりに携わる。

1991年に長野県浪合村立浪合学校で日本建築学会賞賞〔作品〕、2000年に福島県三春町の一連の学校建築計画で同〔業績〕受賞。

文部科学省・国土交通省・防衛省・林野庁等における学校施設関連の委員会の主査・座長等を歴任。

参加企業ご紹介① ～ 教育環境研究所

本日のご出席者

野島 直樹 氏（のじま なおき）



Institute of Educational Environment

教育環境研究所

1970年生まれ。札幌市出身

北海道大学工学部建築工学科卒業。

同大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了。

建設会社を経て、2001年より教育環境研究所。 一級建築士

立場の異なる学校関係者の様々な想いを把握し、今日的な課題を伝え、目標を掲げ、共有し、かたちにつなぐ学校づくりを全国各地で取り組んでいる。

主な実績（公立小学校・中学校）

- ・和歌山県新宮市立神倉小学校（統合・改築）、王子が浜小学校（統合・大規模改修）
- ・岩手県陸前高田市立気仙小学校（木造校舎、東日本大震災の復興学校）
- ・神奈川県川崎市立はるひ野小学校・中学校（新設校、小中併設）
- ・福島県川内村立川内小中学園（義務教育学校・大規模改修＋増築）
- ・青森県南部町立名川中学校・町民ホール（複合施設） 等



参加企業ご紹介② ～ アトリエ ブンク



菅沼 秀樹 氏

(すがぬま ひでき)

株式会社 アトリエブンク
代表取締役

静岡県出身

BNK
Atelier BNK Co., Ltd

- 1994年 北海道大学工学部建築工学科卒業
- 1996年 同大学院工学研究科建築工学専攻修士課程修了
- 1996年 アトリエブンク入社 2016年より代表取締役
- 2016年 函館市縄文文化交流センターにて第15回公共建築賞優秀賞
- 2020年 北海道札幌視覚支援学校にて第17回公共建築賞優秀賞
- ・ 日本建築家協会北海道支部 幹事長
- ・ 北海道建築士事務所協会札幌支部 理事
- ・ 日本建築学会北海道支部 監査役

一級建築士

参加企業ご紹介② ～ アトリエ ブンク



菊池 規雄 氏

(きくち のりお)

株式会社 アトリエブンク
執行役員設計部長

愛媛県出身

BNK
Atelier BNK Co.,Ltd

1991年 北海道大学工学部建築工学科卒業後清水建設入社

2001年 WanderArchi設立

2003年より北海道大学非常勤講師

2015年よりアトリエブンク

2016年 丘のまち交流館biyellにて北海道赤レンガ建築奨励賞

日本基督教団真駒内教会にて北海道建築奨励賞

2018年 日本基督教団真駒内教会にて日本建築学会作品選奨

一級建築士

参加企業ご紹介③ ～ team Lab



取締役

堺 大輔 氏（さかい だいすけ）

1978年、札幌市出身。東京大学工学部機械情報工学科、東京大学大学院学際情報学府修了。大学では、ヒューマノイドロボットのウェアラブル遠隔操作システムについて研究。主に、ソリューションを担当。

■堺氏の取材記事

「ディレクターに代わるのはカタリスト？ チームラボのスゴイ考えと働き方」

http://bita.jp/blog/team_lab_catalyst

「デジタルテクノロジーによる企業価値変革--チームラボのワークスタイル」

<http://japan.zdnet.com/article/35059752/>

「これからのクリエイターに必要なプロデュース力」

<http://www.mebic.com/report/4926.html>

会見の流れ

- 挨拶 ～ 5分程度
- 行政説明 ～ 20分程度
 - ↳ 町長 及川 秀一郎 × 教育長 種田 直章
- 協力企業プレゼン ～ 5分程度 × 3社 = 15分程度
 - ↳ 教育環境研究所 × Atelier BNK × team Lab
- 質疑応答 ～ 30分程度
- **【移動】** ～ 10分程度
- 現地説明 ～ 20分程度 ※参加任意

目次

- 導入
 - └ 安平町のまちづくり
 - └ 平成30年 北海道胆振東部地震 発災から復興へ
- 本題部分
 - └ 住民参画による新しい学校の検討（コンセプト・目標）
 - └ 新しい学校の概要
 - └ 再建を支えるチーム
- まとめ
- appendix

説明者



町長 及川 秀一郎

(おいかわ しゅういちろう)



教育長 種田 直章

(たねだ なおあき)



安平町のまちづくり

(2017-2026 第2次安平町総合計画 基本構想より)

【目指すべきまちづくりの方向性】

将来にわたって子どもの声が地域に響き、
若者・子育て世代で賑わうまち

まちづくりの
大きな柱

子育て・教育

子育て・教育分野の
充実・成長

子育て世代・若年層の
移住・定住へ

平成30年 北海道胆振東部地震【発災～復旧】

2018.9.6

震災発生

復旧



中学校校舎、グラウンドへの被害



山林被害、住家被害、インフラへの被害



早来中学校 仮設校舎



大規模盛土造成地滑動崩落防止事業



下水道復旧工事



河川復旧工事

平成30年、北海道胆振東部地震【未来へつながる復興】

復興



道の駅あびらD51ステーション 開業



公的住宅 建設



特別養護老人ホームの
移転改築

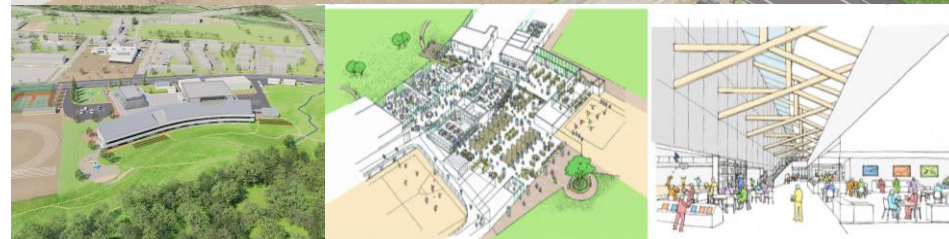


あびら教育プランに基づく遊育推進事業、学びサポート事業

未来につながる 復興へ



早来小学校・中学校校舎 パース図



北海道で唯一 校舎を持っていない生徒がいる

体育館がない、グラウンドがない、図書室がない、
体育祭ができない、学校祭ができない、入学式／卒業式ができない



令和4年10月完成予定

学校が出来るまで
復旧は終わらない

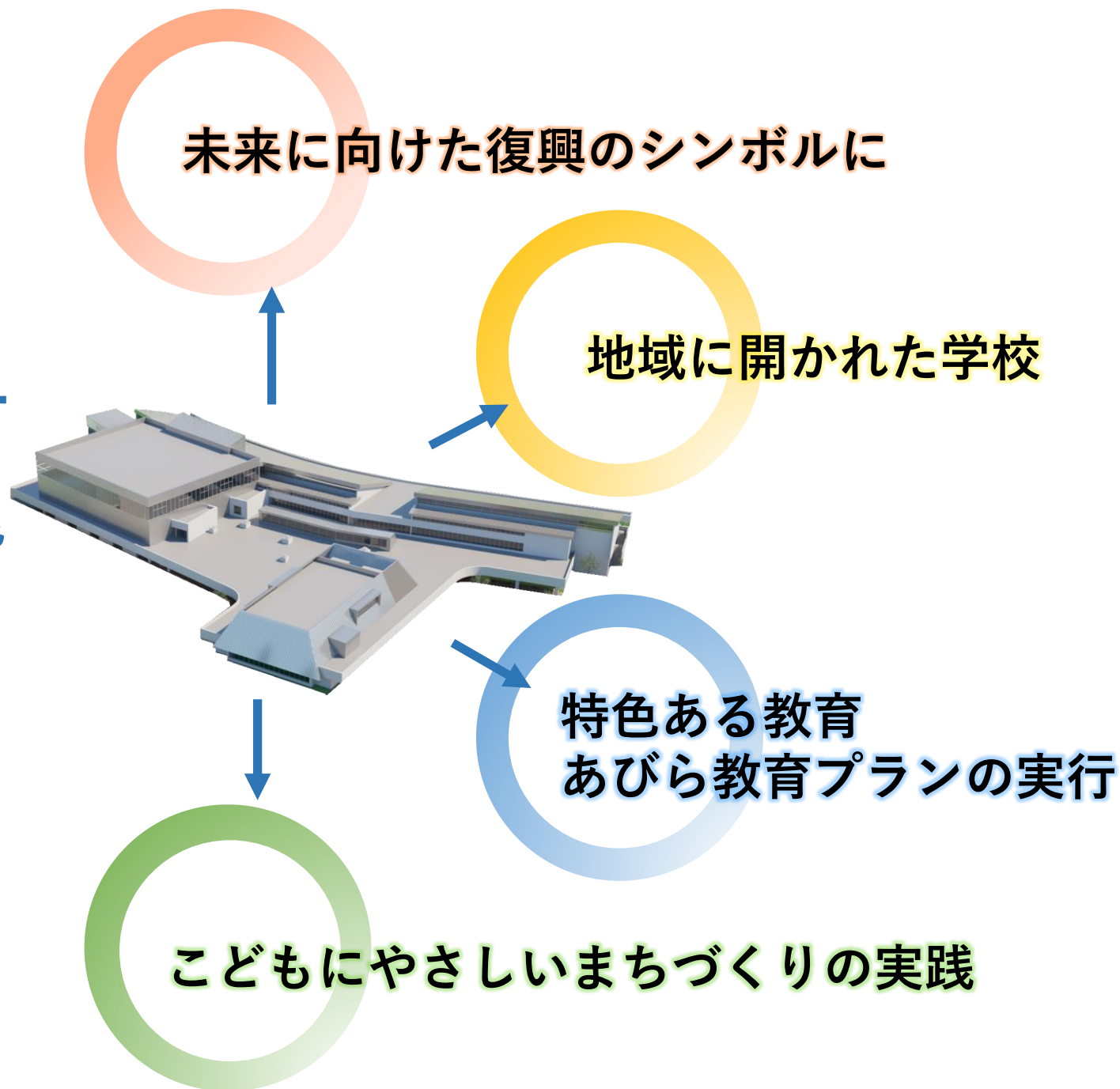
ピンチをチャンスに

元に戻すだけでなく
前より良い学校をつくる

シンボル
『**復興の象徴**へ』

学校再建に向けて

学校再建と特色ある取組みを連動させ、魅力ある子育て・教育の町を目指していきます。



早来中学校の校舎が使えない



案1) 同じ場所に改修か建替える？

⇒ 地盤に大きな被害がでた

案2) 別の場所に建てる？ ⇒ 市街地に広い町有地がない

案3) 小学校隣に建替える？ ⇒ 小学校グラウンドがなくなる



小学校隣地を取得し、老朽化する早来小学校と一体校舎新築



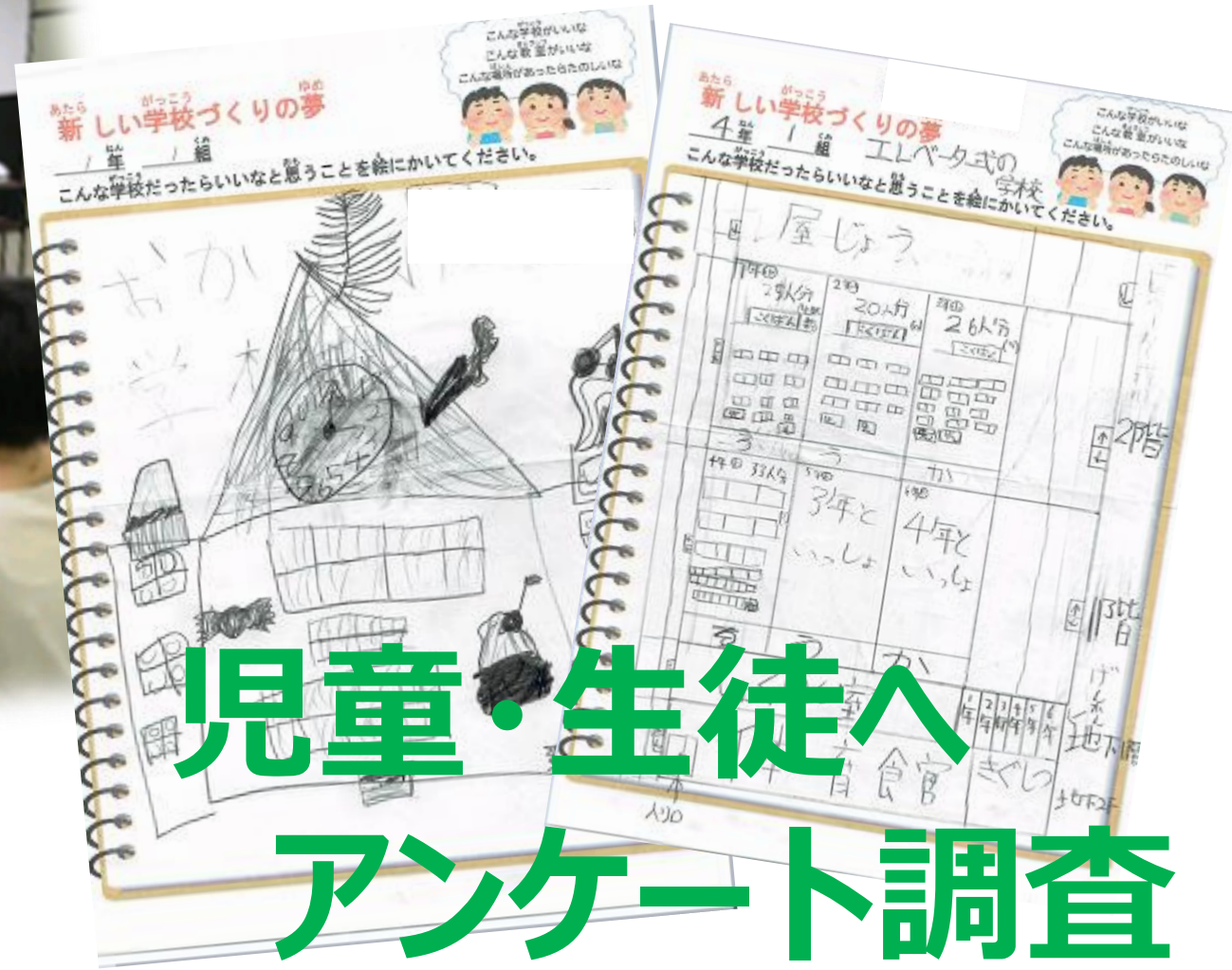
早来中学校 × 早来小学校

= 義務教育学校

みんなで一から学校を考えた ～ 新しい学校を考える会

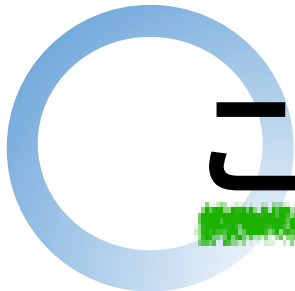
児童・生徒
の会議参画

児童・生徒へ
アンケート調査

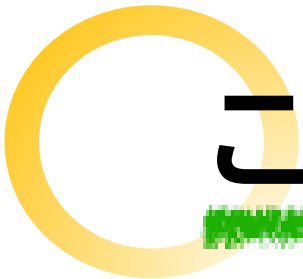


考える会で考えたこと・・・

時代の変化を見据えて



これからの時代を生きる子どもの姿



これからも続く学校のあり方

新しい学校 コンセプト

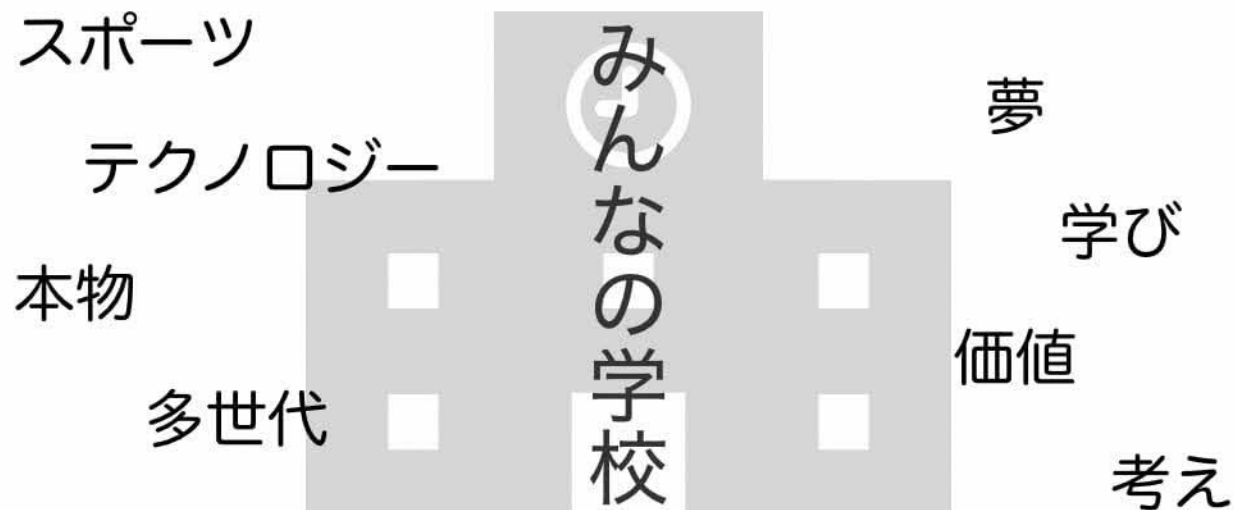
自分が“世界”と出会う場所



新しい学校コンセプト

安平町の
「自然」「地域」「文化」「人」に
触れ、支え、支えられる中で、
学校を通して
「スポーツ」「テクノロジー」や
「異年齢、多世代」の人達、
たくさんの「本物」と出会い、
さらに
「色々な考え」「多様な価値観」
「多くの学び」
「夢」とも出会い、
“世界”に生き、
“世界”へと羽ばたいていく

自分が“世界”と出会う場所



自然

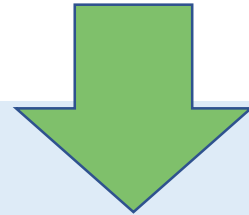
地域

文化

人

新しい学校 計画目標

1. 多様性の中で豊かな社会性を育てる環境づくり
2. 学ぶ意欲を喚起し、創造力を高める環境づくり
3. 子どもが主役の学びの環境づくり
4. 9年間の確かな成長を支える環境づくり
5. 心地の良い、快適に過ごせる学校づくり
6. まちのコミュニティセンターとなる学校づくり - 学社融合
7. 「チーム学校・チーム安平」 - 地域の子どもは地域で育てる
8. 安平町の未来を拓く学校づくり



ポイント

○地域とのつながりの重要性

○単なる復旧ではない

教育環境計画の専門家集団

岩手県陸前高田市立気仙小学校
東京都板橋区立板橋第一小学校
板橋区立中台中学校、赤塚第二中学校
京都府同志社小学校・中学校高等学校
広島県立広島観智学園中学校高等学校

強力なチーム体制



教育環境計画

アトリエ系の建築設計

東川小学校
東川町地域交流センター
二部谷アイヌ文化博物館
弟子屈中学校
黒松内中学校（エコ改修）
札幌市立資生館小学校



アトリエブンク

建築設計

安平町



teamLab
(チームラボ)

ICT環境設計

学校教育と社会教育の融合

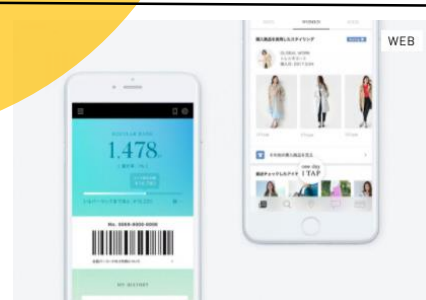
安平町

コミュニティ・スクールの先進自治体
幼稚園から高校までC.Sを設置
社会教育主事配置の充実
新しい教育スタイルの展開
(遊育ーあびらぼーカイトク)



ウルトラ テクノロジスト集団

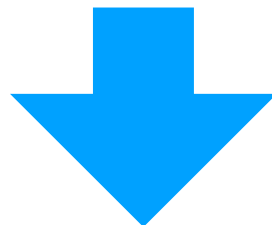
チームラボボーダレス（アート）
武雄市役所（建築）
全日空システム（システム）
※アーティスト、プログラマー、
デザイナー、数学者、建築家など
で構成されるスペシャリスト集団



新しい学校のコンセプト

自分が“世界”と出会う場所

学校を通して「夢」「本物」「地域」「社会」と出会う



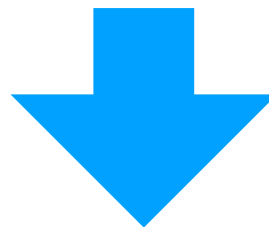
地域と学校を分けない

自らの頭で考え、
仲間と協力し、
最適解を見だし、
地域や社会のために
行動を起こす。

子どもを子ども扱いせず
地域の一員として
共に社会を生きる学校。

安平町生涯学習計画の重点

子ども主体・子どもの社会参画を軸とした学校

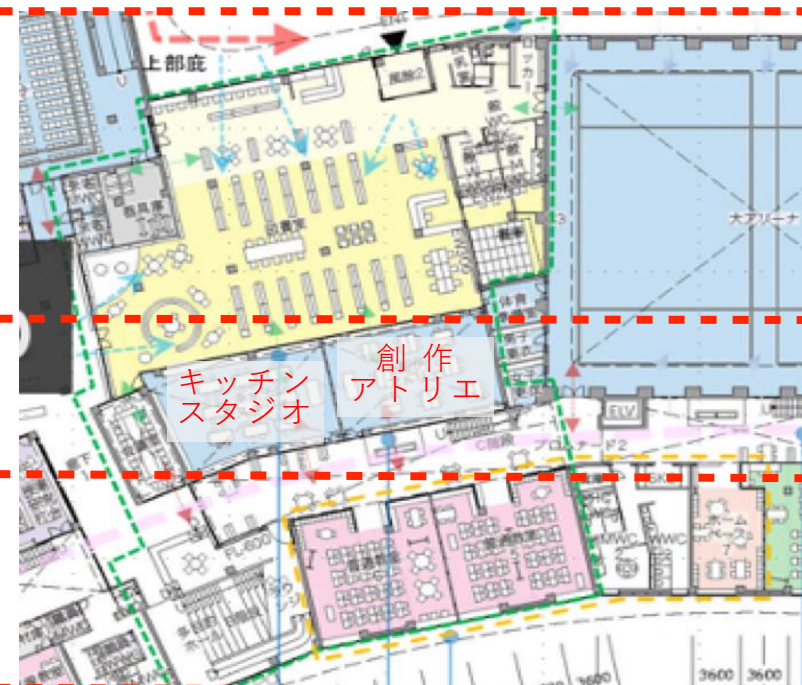


地域や社会課題をテーマにした学習の実現を目指す！

図書室
(地域開放)

特別教室
(地域開放)

普通教室
教科教室



※教科専用教室を配置(英語室、数学室、社会室、国語室、理科室)

新しい学びに最適化された教育環境



IEE × Atelier BNK × チームラボによる共創空間デザイン

- 黒板はなくホワイトボードとプロジェクター（電子黒板）
- 一般的な学校の約2倍ある広さの普通教室と教科教室
- 学年によってデザインの異なる教室内空間（9年間の旅）
- 新しい学びに適応した学校家具
- アナログとデジタルが融合した学習環境（ICT活用と自然体験）

- 教員一人一台iPhone所有（生徒はiPad）
- 校務支援システム導入による教員の業務軽減
- 学校の施設開放はスマホから予約
（音楽室、キッチン、アトリエ、アリーナ等を開放）

**安平町の未来（復興）は、
教育がつくる。教育でつくる。**

スマートスクール実現に必須となる
教室予約サイト



スマートスクールシステム（チームラボ）

まとめ①

○義務教育学校 誕生

- ・ 令和5年4月安平町に新しい学校

○ピンチをチャンスに

- ・ 新学校は、震災からの単なる復旧でない
- ・ 新学校は、復興のシンボル
- ・ 令和の次の時代を、見据え、つくる

まとめ②

○安平町の教育は、

子どもを分けない = 小×中（9年一貫教育）

子どもと大人を分けない = 学校×地域

○安平町の未来は、

教育がつくる。教育でつくる。

設計チームのプレゼン（各5分程度）

①教育環境研究所（教育環境計画）

→会社紹介とこの学校の魅力



Institute of Educational Environment

教育環境研究所

②アトリエ ブンク（建築設計）

→設計の工夫と建築としてのPRポイント



③チーム ラボ（ICT環境設計）

→ICT環境で何を実現するか

→ラボの考えがどこに反映されたか



設計チームのプレゼン（各5分程度）



Institute of Educational Environment

教育環境研究所

①教育環境研究所（教育環境計画）

→会社紹介とこの学校の魅力

②アトリエ ブンク（建築設計）

→設計の工夫と建築としてのPRポイント

③チーム ラボ（ICT環境設計）

→ICT環境で何を実現するか

→ラボの考えがどこに反映されたか

教育環境研究所

Institute of Educational Environment





活動実績
30年間で100校以上の
学校づくりに関わる

◆ 聖籠町立聖籠中学校 (1998)
◆ 板橋区立赤塚第二中学校 (2010)
◆ 長岡市立東中学校 (2004)
★ 板橋区立中台中学校 (2010)
・ 見附市立今町小学校 (2007)
★ 青山学院中等部 (2012)
・ 長岡市立宮内中学校 (2007)

◆ 南砺市複合教育施設アーパスとが (1994)
◆ 坂井市立丸岡南中学校 (2002)
◆ 近江八幡市立島小学校 (2010)
・ 富山県立富山中部高等学校 (2012)

【京都府】
・ 同志社小学校 (2004)
◆ 同志社中学校高等学校 (2007)

【埼玉県】
・ 鴻巣市立吹上小学校 (2012)

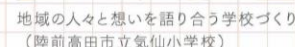
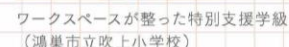
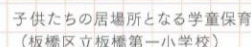
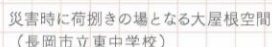
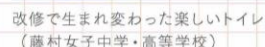
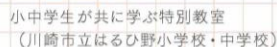
【和歌山県】
・ 新宮市立千穂丹鶴小学校 (2008)
・ 新宮市立蓬萊王子小学校 (2009)
・ 新宮市立蓬萊王子幼稚園 (2010)

基本調査 (1992)
高等学校 (2004)
小中学校 (2005)
(2008)
学校 (2009)
等学校 (2010)



- ・夢をみんなで語り合い、想いを集めること
- ・今日的な課題を共有し、目標を掲げること
- ・目標を実現するための施設のあり方を明確にすること
- ・施設のあり方、考え方を完成後の実践につなぐこと

- ・ 未来（＝子どもたち）を拓く学校を実現すること



早来地区義務教育学校の計画プロセス

基本構想段階 平成31年1月～3月

みんなの想いを集め、課題や目標を明確にする

→安平町立早来中学校再建事業調査資料

■社会的な課題

- ・急速な社会の情報化 society5.0
- ・公共施設老朽化対策
- ・マネジメントの考え方
- ・避難拠点、SDGs・省エネ
- …等

■教育的な課題

- ・新学習指導要領
- …アクティブラーニング
- …社会に開かれた教育課程 等

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」） の視点からの授業改善について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通し



学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

これからの教育課程の理念

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。

＜社会に開かれた教育課程＞

- ① **社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。**
- ② **これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。**
- ③ **教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。**

図．社会に開かれた教育課程の理念

■学校に関心のある町民の想いを集める …新しい学校を考える会



第1回・・・平成31年1月16日(水)

テーマ 学校とは何か

参加者 17名 (うち小学生1名、中学生1名)

第2回・・・平成31年1月22日(火)

テーマ 児童生徒、保護者、地域住民にとって、学校とはどのような場か

参加者 17名 (うち小学生1名)

第3回・・・平成31年2月6日(水)

テーマ 学校施設にどのような機能があれば良いか

参加者 16名

第4回・・・平成31年2月20日(水)

内 容 学校施設の先進事例の紹介 (学習会)

参加者 19名 (うち小学生1名)

第5回・・・平成31年3月8日(金)

内 容 学校施設の防災機能について

参加者 10名

第6回・・・平成31年3月19日(火)

内 容 学校施設の地域開放利用について

参加者 15名



■基本コンセプト

『 自分が“世界”と出会う場所 』

安平町の

「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、

支え、支えられる中で、

学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」など

「異年齢、多世代」の人達、たくさんの「本物」と出会い、

さらに

「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」「夢」

とも出会い、

“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

みんなの学校

■学校づくりの課題と目標

1. 多様性の中で豊かな社会性を育てる環境づくり
2. 学ぶ意欲を喚起し、創造力を高める環境づくり
3. 子どもが主役の学びの環境づくり
4. 9年間の確かな成長を支える環境づくり
5. 心地の良い、快適に過ごせる学校づくり
6. まちのコミュニティセンターとなる学校づくり - 学社融合
7. 「チーム学校・チーム安平」 - 地域の子どもは地域で育てる
8. 安平町の未来を拓く学校づくり

基本計画段階 令和元年6月～7月

想いをふまえた目標を掲げ、新しい学校施設の基本的な考え方をまとめる
また敷地の使い方や施設配置のフィージビリティ（可能性）スタディを実施

→安平町立早来中学校再建事業基本計画

■検討状況

2か月間で合計8回関係者と協議

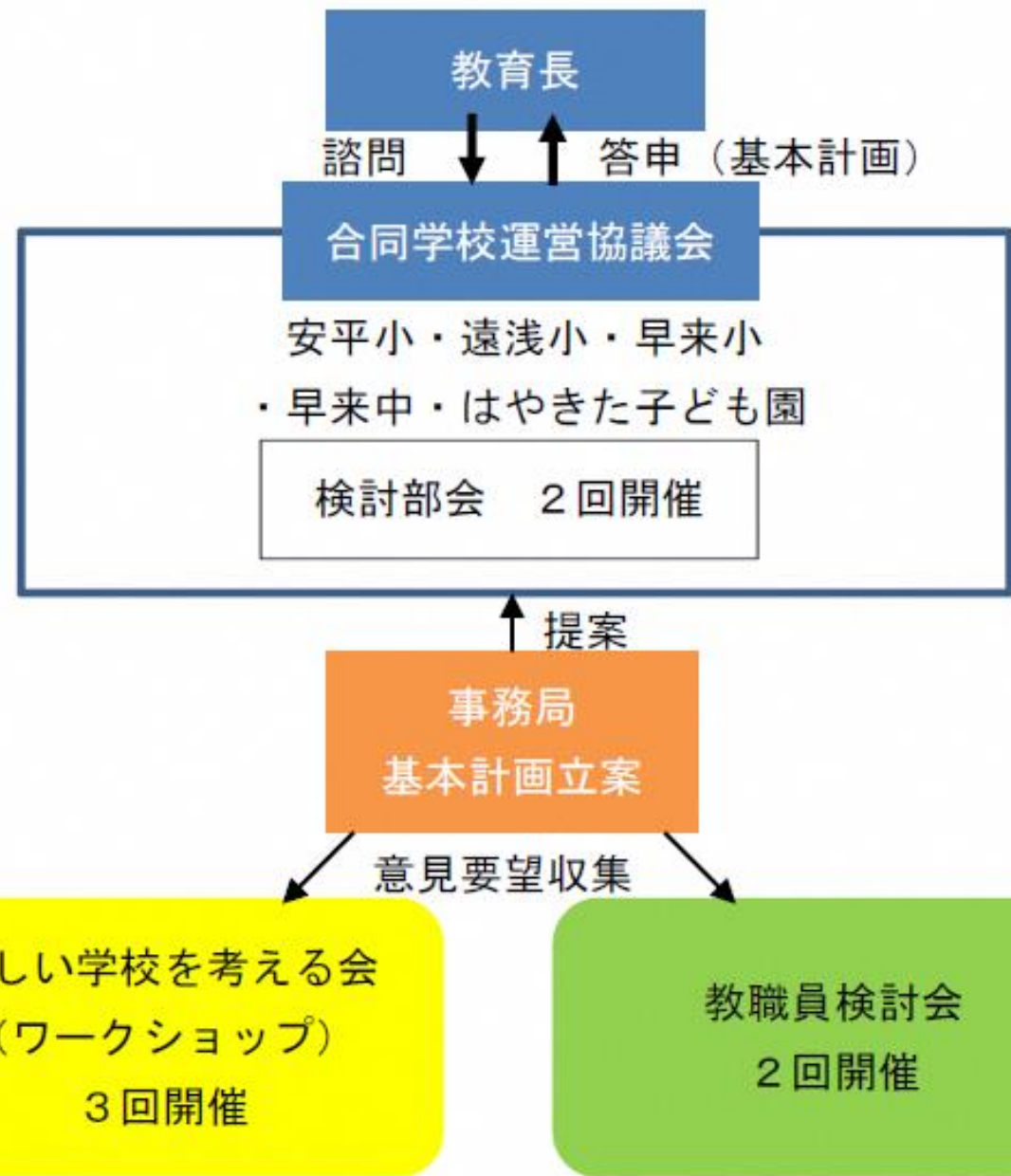


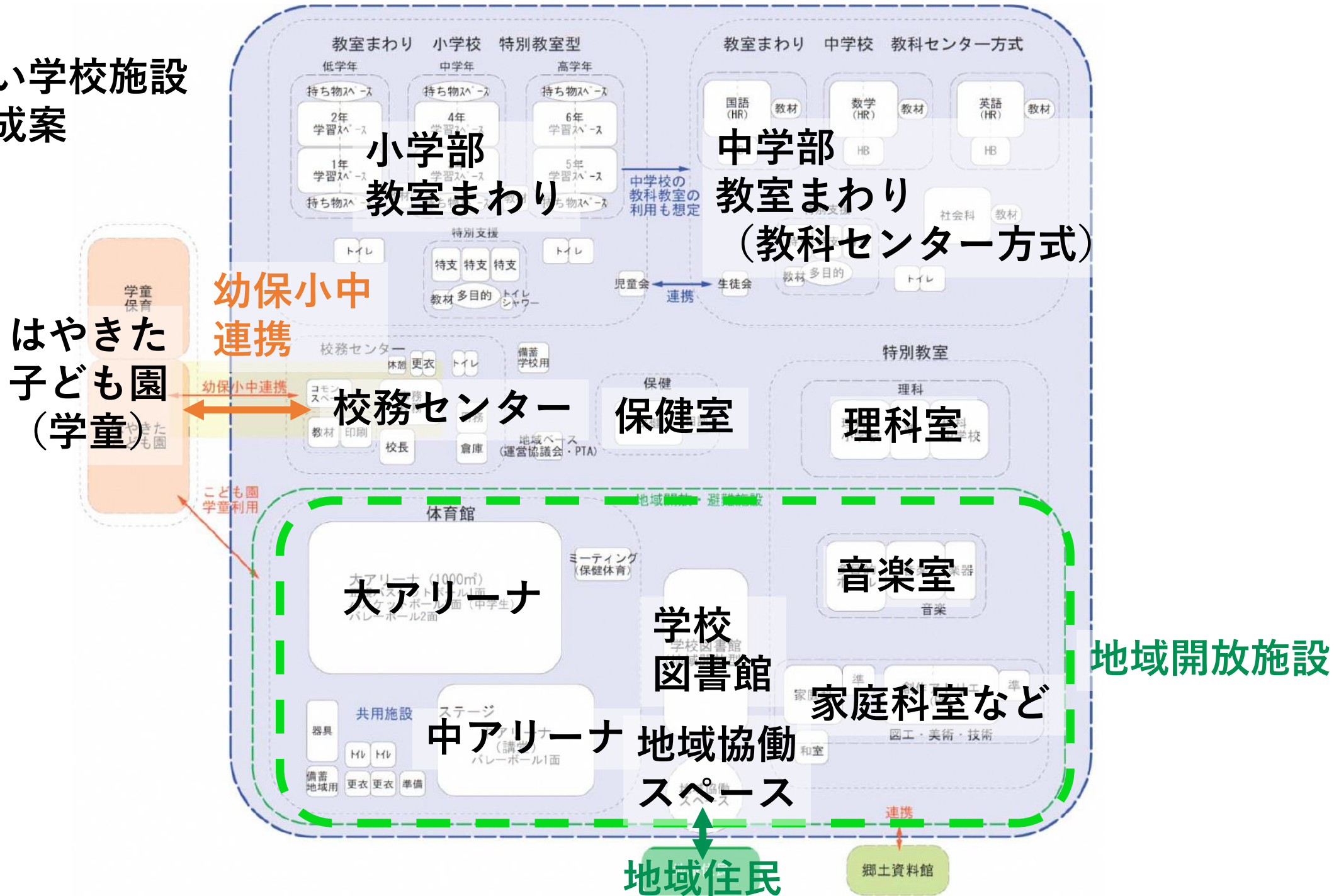
図. 検討体制

■目指す学校施設像（抜粋）

- ・ 学校教育の場として子どもたちの成長を支えるとともに、いつでも子どもたちや町民の居場所、活動場所となる学校を目指します。それは夜も活動場所の光が町を照らし、学校を支える人々を招き入れる学校です。
- ・ 図書館、体育館、多目的ホール、特別教室等、地域利用が想定される諸室・スペースは、そこで活動する喜びが感じられる空間・設備を備えたものとし、それが学校教育の充実にもつながるようにします。
- ・ そのためにはセキュリティの確保、利用時間調整を含めた施設全体の管理運営、エネルギー管理等が、学校に過度な負担をかけることなくできる配置と情報システムを備えた学校とします。

- ・
- ・
- ・

■新しい学校施設の 構成案



設計チームのプレゼン（各 5 分程度）

①IEE教育環境研究所（教育環境計画）

→会社紹介とこの学校の魅力

②アトリエ ブンク（建築設計）

→設計の工夫と建築としてのPRポイント



③チーム ラボ（ICT環境設計）

→ICT環境で何を実現するか

→ラボの考えがどこに反映されたか

自分が
世界と
出会う

BNK
Atelier BNK Co., Ltd

ここにしかない
そのときにしかない
隣人

どこでも
いつでも
誰とでも

建築で世界を深める

ICTで世界を広げる

丘をのこし、
小川を生かして
配置する

こども園

しらかば公園

テニスコート

体育倉庫

グランド

ここにしかない
「丘」「小川」

中アリーナ

図書室

大アリーナ

駐車場

観察の庭

Maker's
Labo

菜園

後期課程

教室棟

前期課程

散策路

菜園

すずらんの丘

鉄棒

小さなこどもの遊び場

すずらんの丘を抱き
観察の庭とつながる

いろいろな
形、高さ、方向の
屋根をつくり
街並みに参加する

すずらんの丘

観察の庭

Maker's
Labo

後期課程

教室棟

駐車場

前期課程

小さなこどもの遊び場

図書室

まちの玄関

中アリーナ

学校の玄関

グラウンド

しらかば公園

体育倉庫

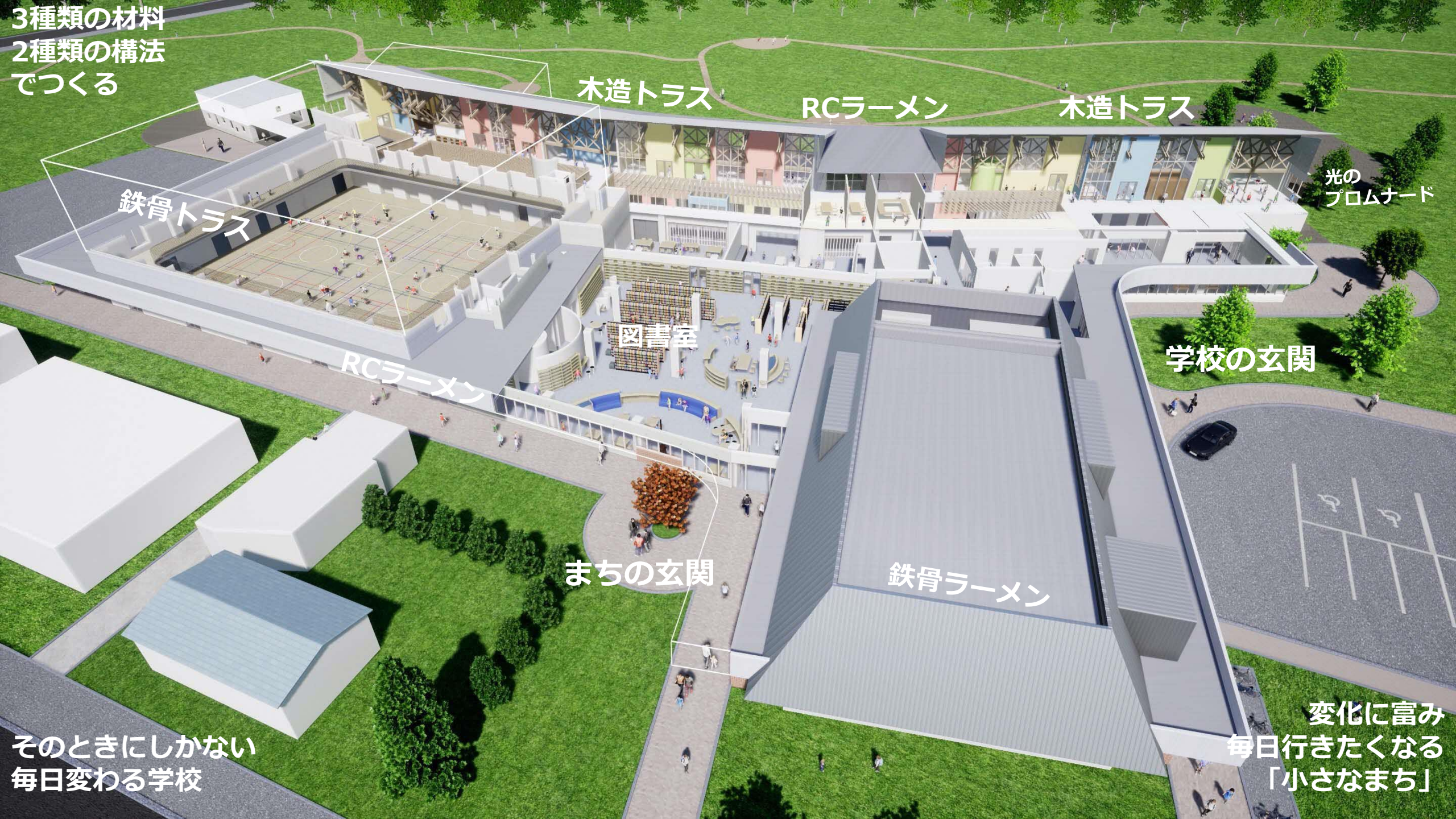
テニスコート

こども園

ここにしかない
まちの人々

まちに開き
人々につながる

3種類の材料
2種類の構法
でつくる



木造トラス

RCラーメン

木造トラス

光の
プロムナード

鉄骨トラス

図書室

RCラーメン

学校の玄関

まちの玄関

鉄骨ラーメン

そのときにしかない
毎日変わる学校

変化に富み
毎日行きたくなる
「小さなまち」

安平が持っている
素材やかたちを
生かす



豊かな森の恵[厚沢部の事例]



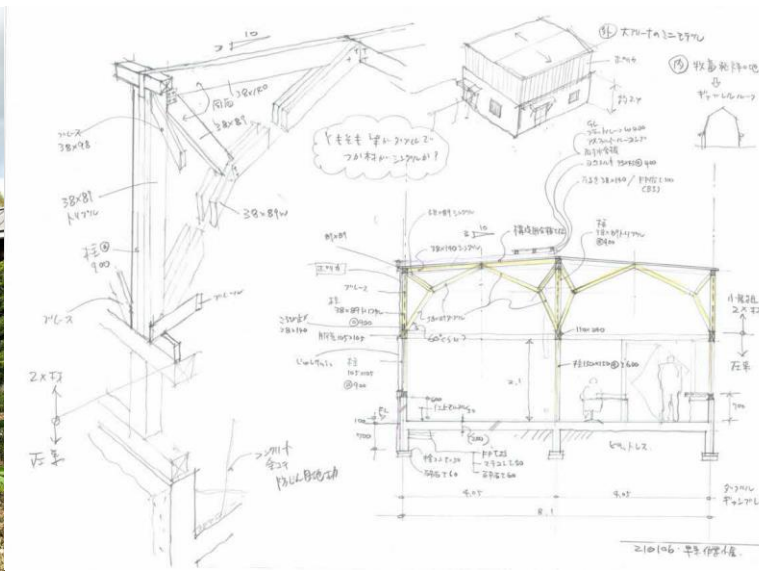
地震で壊れた
安平の蔵の石



競走馬
室内トラック



遠浅
腰折屋根



フランス
パッサージュ



フランス
アルザス



イタリア
チンクエッテ



台南
友愛路の街並み



台南
騎楼

世界の街並みから
ヒントをもらい
世界とつながる



角スパン

フラットルーフ

レンガ

テクノロジーファーム西の里



コンクリート
化粧打ち放し

スチール溶融亜鉛メッキ手すり

トドマツルーバー軒天井

道南杉羽目板

奥尻中学校



カラマツ集成材

厚沢部こども園



トドマツルーバー手すり

テクノロジーファーム西の里

北海道の気候や歴史に育まれた
材料や素材をつかう

5.まなびの魅力を伝える教科教室

後期課程は各教科ごとの専用教室と生徒の居場所となるHB（ホームベース）からなります。教科専用教室は各教科の資料などが常時見て触ることができ、まなぶことの魅力を生徒に伝える場になります。HB（ホームベース）に隣接する教科教室は、各クラスのCR（クラスルーム）にもなります。

6.“世界”とつながる学校

どこでもいつでも誰とでもつながることが可能なICT技術を用いて、多様で共創的な授業ができる情報通信環境を整えます。

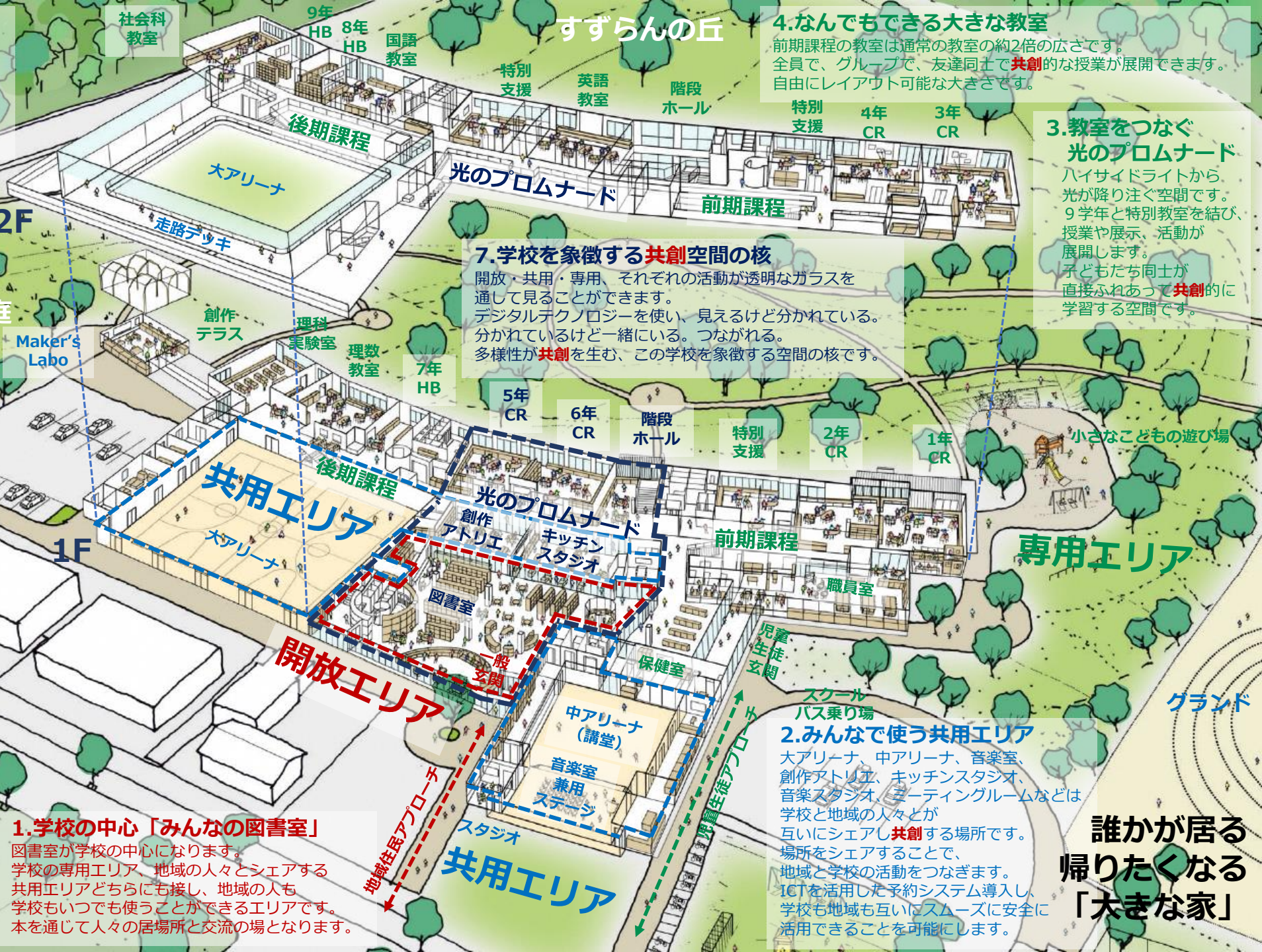
分けるから混ざるへ 同じから違うへ

混ざることで生まれる共創 違うからこそ混ざる

新しい学校は開放・共用・専用の3つのエリアから成り立っています。

- 開放エリアは地域の人も使うことができます。
- 共用エリアは学校が使っていないとき、地域の人も使うことができます。
- 専用エリアは学校が主に使い、利用者、場所、時間を限って地域の人も使うことができます。セキュリティラインをはっきりさせ、ICT技術を活用して学校・地域両方の人々が安全に使える学校とします。

ここにしかない隣人
家族のような人々と



すずらんの丘

4.なんでもできる大きな教室

前期課程の教室は通常の教室の約2倍の広さです。全員で、グループで、友達同士で共創的な授業が展開できます。自由にレイアウト可能な大きさです。

3.教室をつなぐ 光のプロムナード

ハイサイドライトから、光が降り注ぐ空間です。9学年と特別教室を結び、授業や展示、活動が展開します。子どもたちが直接ふれあって共創的に学習する空間です。

7.学校を象徴する共創空間の核

開放・共用・専用、それぞれの活動が透明なガラスを通して見るができます。デジタルテクノロジーを使い、見えるけど分かれている。分かれているけど一緒にいる。つながれる。多様性が共創を生む、この学校を象徴する空間の核です。

1.学校の中心「みんなの図書室」

図書室が学校の中心になります。学校の専用エリア、地域の人々とシェアする共用エリアどちらにも接し、地域の人々も学校もいつでも使うことができるエリアです。本を通じて人々の居場所と交流の場となります。

2.みんなで使う共用エリア

大アリーナ、中アリーナ、音楽室、創作アトリエ、キッチンスタジオ、音楽スタジオ、ミーティングルームなどは学校と地域の人々が互いにシェアし共創する場所です。場所をシェアすることで、地域と学校の活動をつなぎます。ICTを活用した予約システム導入し、学校も地域も互いにスムーズに安全に活用できることを可能にします。

誰かが居る
帰りたくなる
「大きな家」

4層構成がもたらす 共創へのきっかけ



ここにしかない隣人
家族のような人々と



誰かが何かをやっている
創作アトリエ キッチンスタジオ



誰かとかならず出会う
児童生徒玄関



誰かがかならずいる
まちのリビング

分けるから混ざるへ
共創空間の核

街並みのように
変化に満ちた空間

特別
支援
教室
2

普通
教室
4

普通
教室
3

教材庫
3

職員室

そのときにしかない
毎日変わる学校

1日、1年の光の変化を届ける
光のプロムナード

国語
教室

大アリーナ

社会科
教室

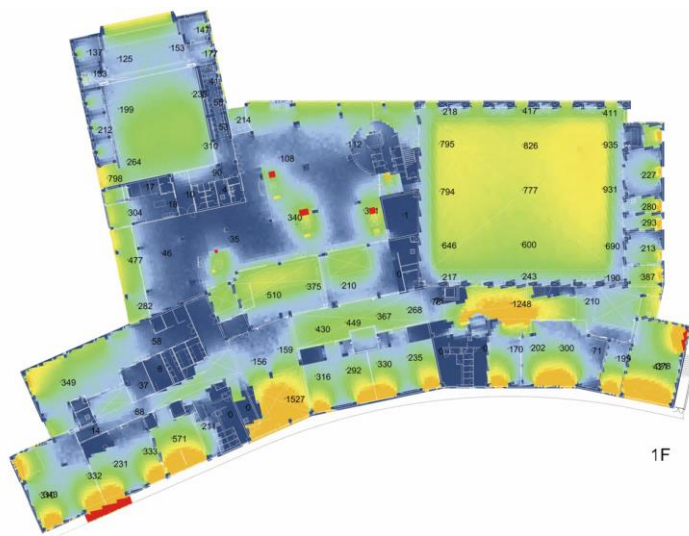
理科
実験室

理数
教室

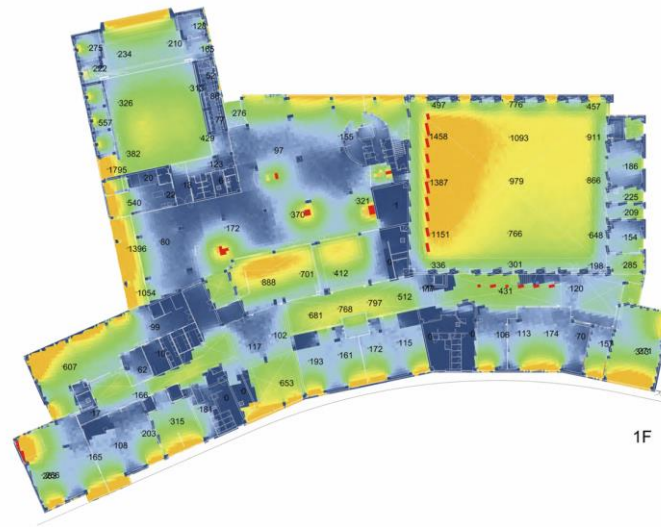
HB7 変化に富み
毎日行きたくなる
「小さなまち」

夏至の1日

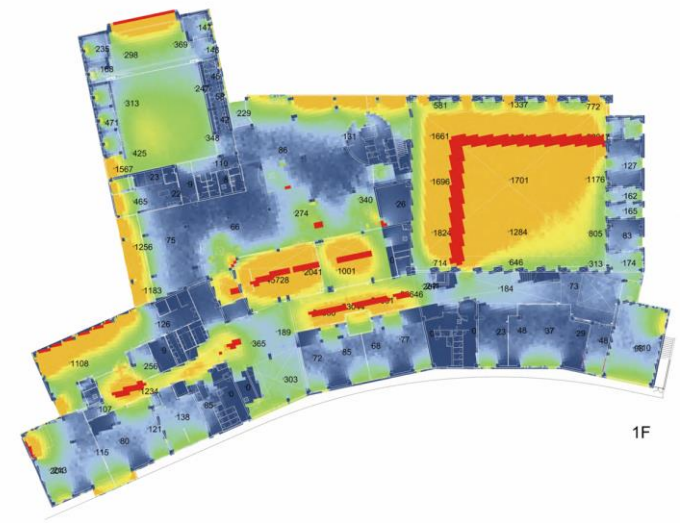
照度シミュレーション



朝



昼



夕

そのときにしかない
毎日変わる学校 光

変化に富み
毎日行きたくなる
「小さなまち」







大アリーナ



中アリーナ



敷地の今

ここにしかない
そのときにしかない
隣人
を見つける学校

設計チームのプレゼン（各5分程度）

①IEE教育環境研究所（教育環境計画）

→会社紹介とこの学校の魅力

②アトリエ ブンク（建築設計）

→設計の工夫と建築としてのPRポイント

③チーム ラボ（ICT環境設計）

→ICT環境で何を実現するか

→ラボの考えがどこに反映されたか



共創空間・スマートスクール 説明資料

学校が町になる、町が学校になる 世界をつなぎ、未来へつなぐ

ICT環境設計

みんなの学校

自分が世界と
出会う場所



地域と学校が
一体となったみんなの学校

ICT環境設計にあたり

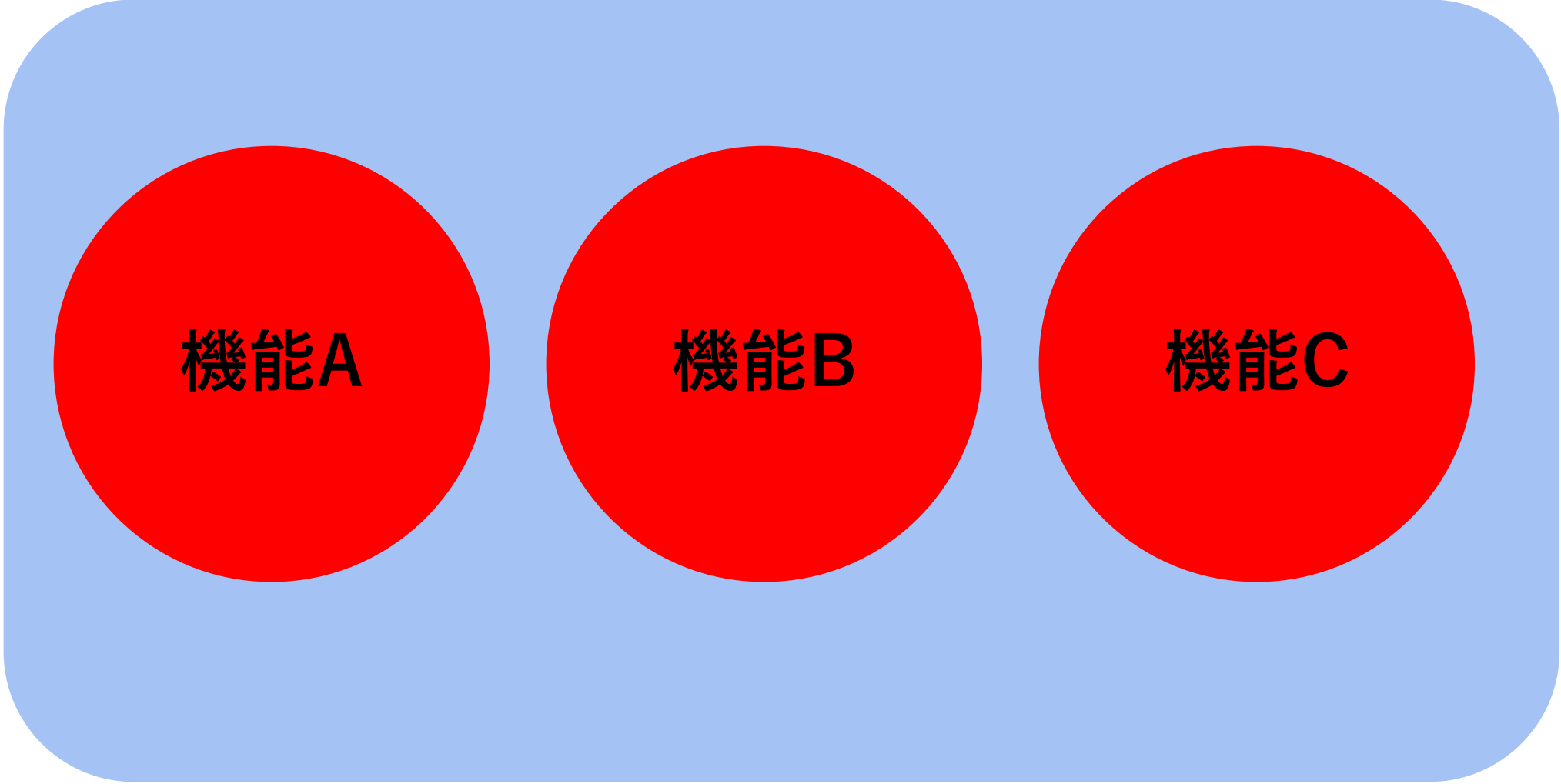
デジタルが発明され変化したこと

ひとつの空間にひとつの機能から、
ひとつの空間に複数の機能を共存させる

空間

機能A

空間



機能A

機能B

機能C

家

個人の家 = ホテル

車

自家用車 = タクシー

学校
共創空間

学校

音楽室

美術室

家庭科室

コミュニティセンター

スタジオ

アトリエ

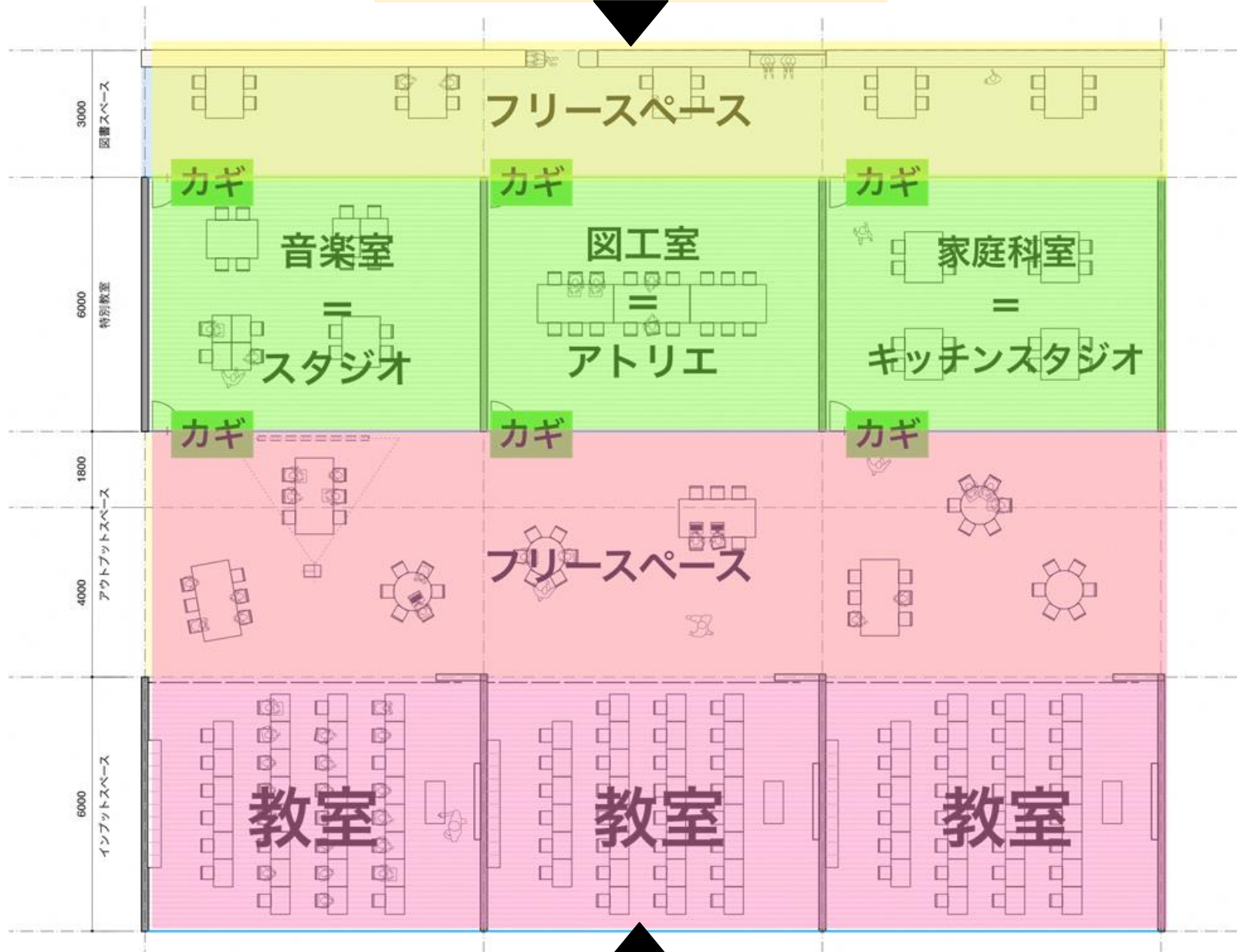
キッチン教室

音楽室 = スタジオ

美術室 = アトリエ

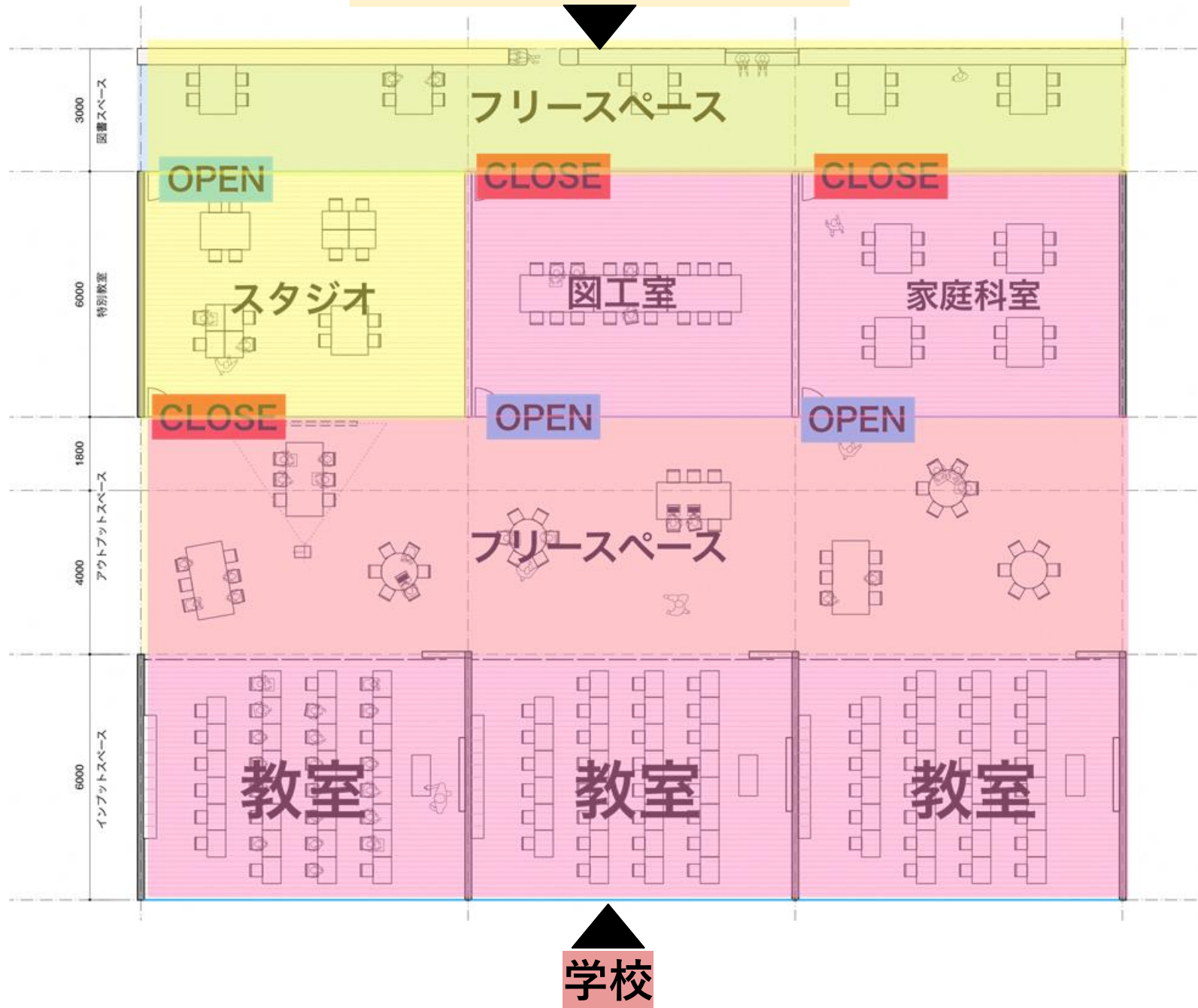
家庭科室 = キッチン教室

コミュニティセンター

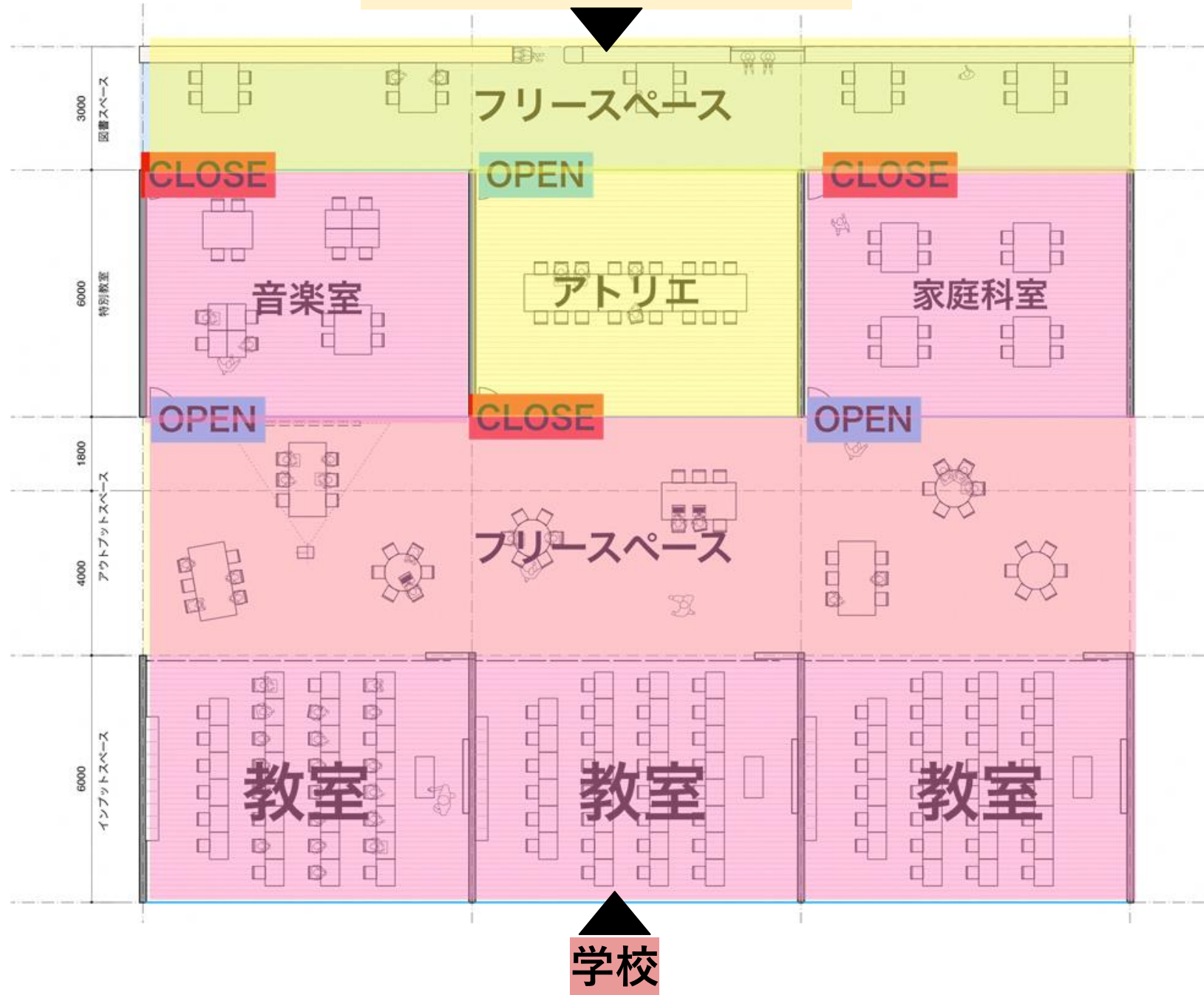


学校

コミュニティセンター

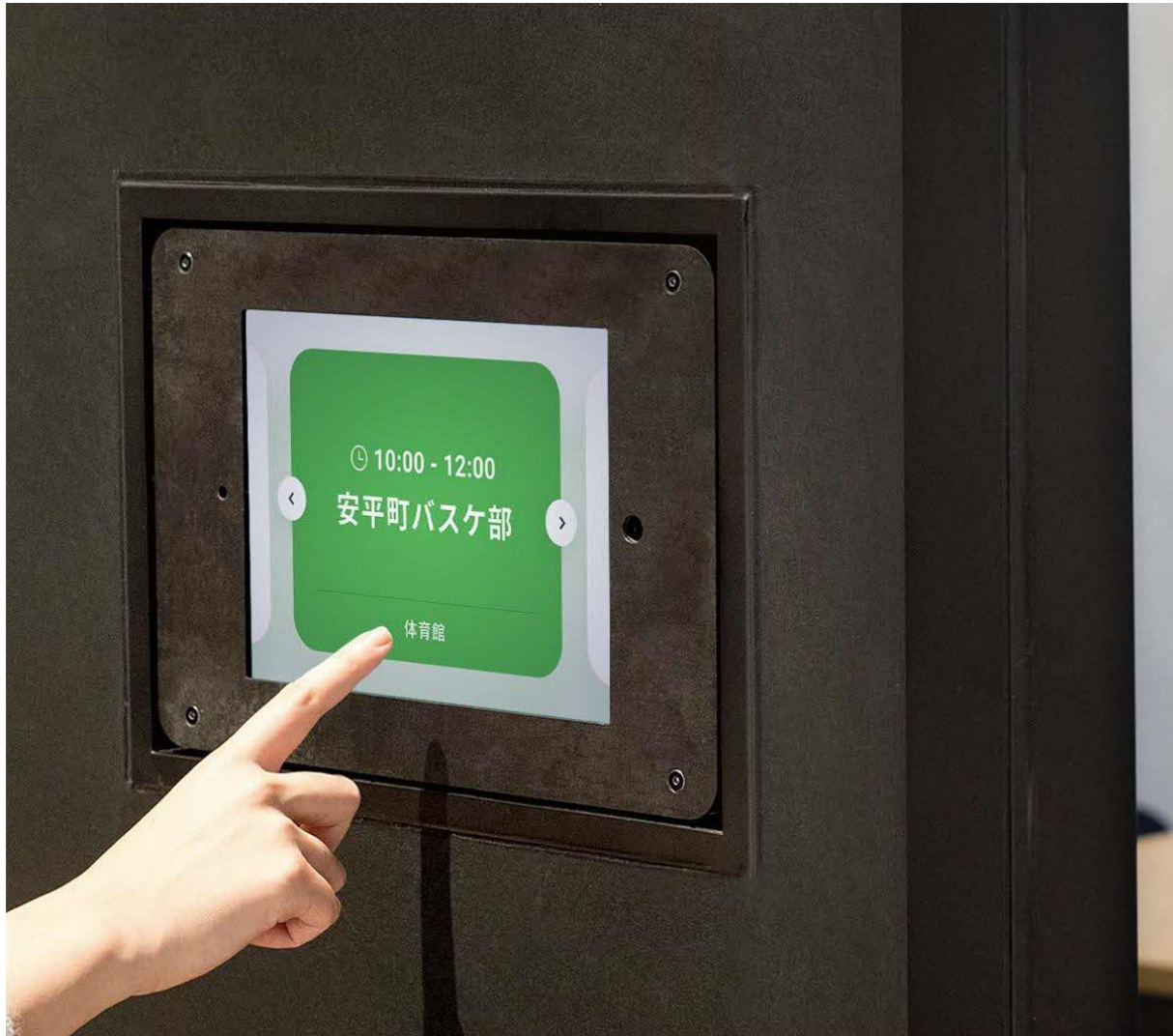


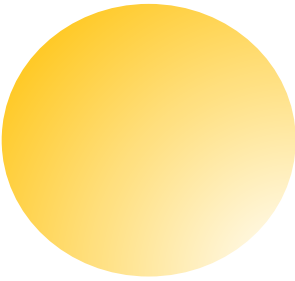
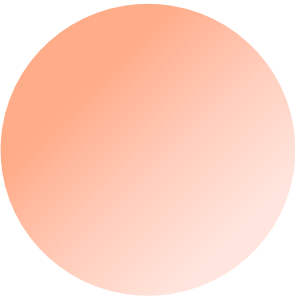
コミュニティセンター



スマートスクールシステム

予約状況確認タブレット 全体イメージ





質疑応答



安平町 企業版ふるさと納税 未来へつながる復興まちづくりプロジェクト

安平町では、地方創生の取組みとして
企業版ふるさと納税制度を活用し、
学校再建にご賛同いただける企業様を
募っています。



詳しくは

安平町 企業版ふるさと納税

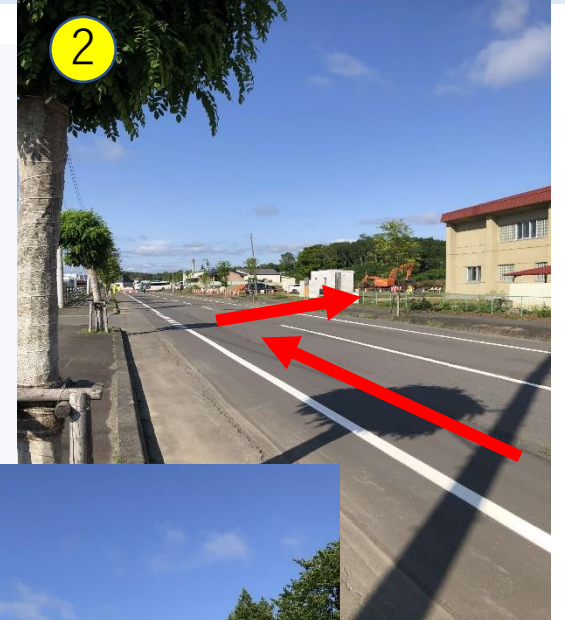
検索

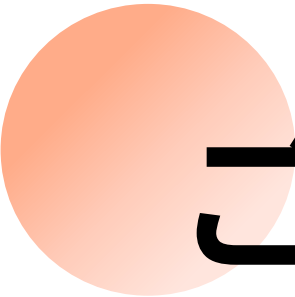
令和3年6月末時点
寄付実績

12企業様より
2,940万円

いただいた寄付金については、左記のとおり、
未来へつながる復興として学校再建に活用さ
せていただきます。

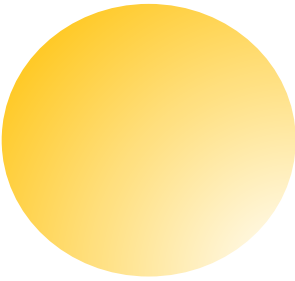
現地視察案内





ご参加

ありがとうございました。



Appendix

項目

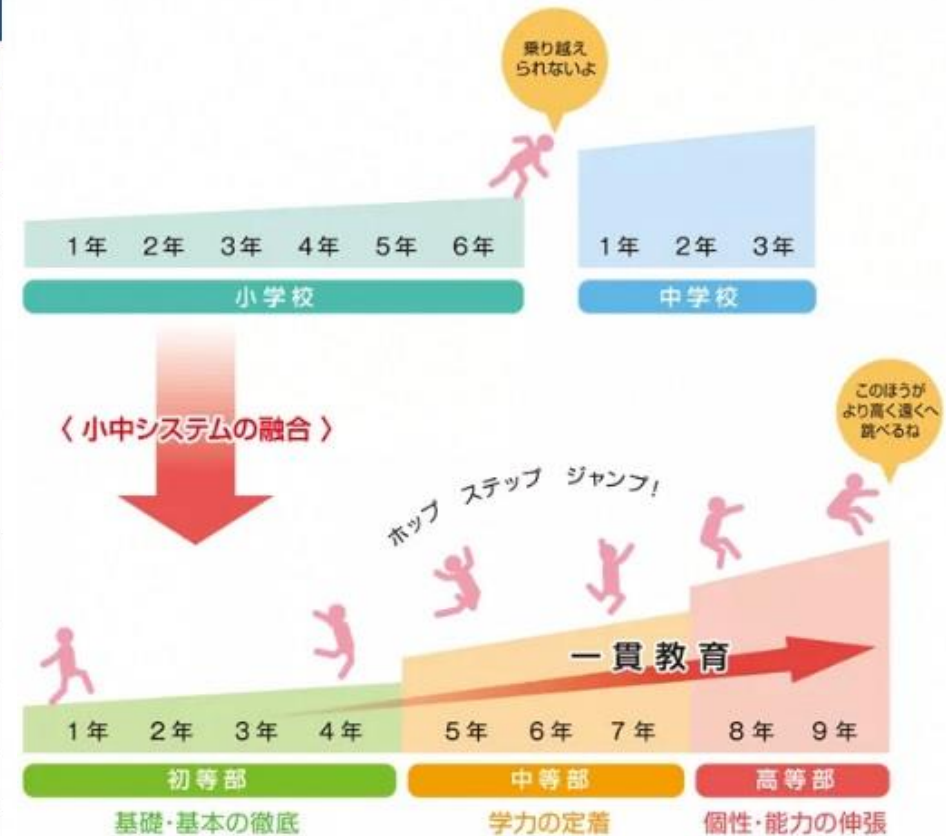
- ・義務教育学校とは？
- ・児童・生徒の推移と推計
- ・概算事業費
- ・スケジュール
- ・今後検討していく事項
- ・説明会等実績
- ・あびら教育プラン
- ・CFCI（こどもにやさしいまちづくり）

義務教育学校とは

(参考) 小中一貫教育に関する制度の類型

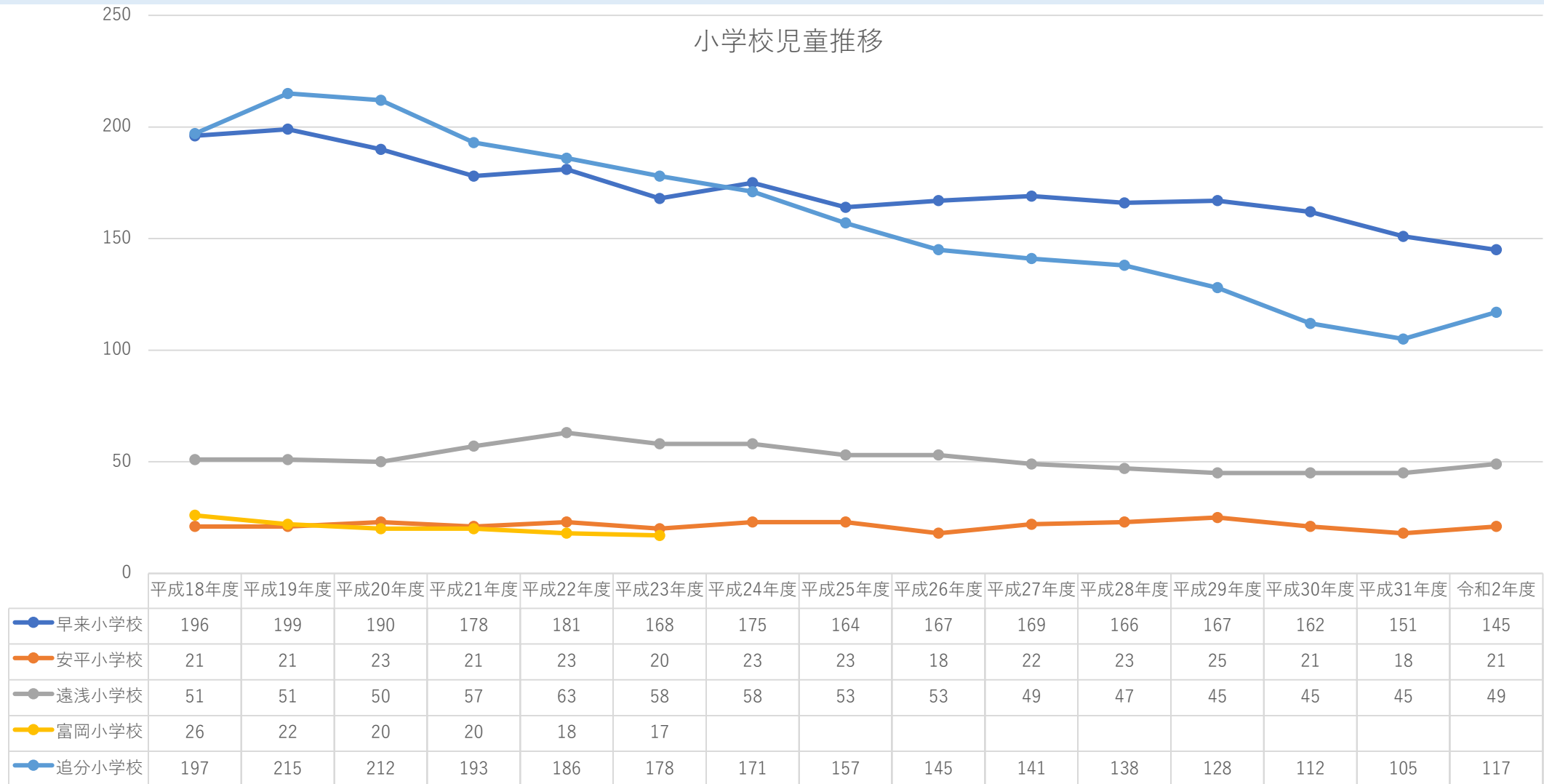
		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
			中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者		—	同一の設置者	異なる設置者
修業年限		9年 (前期課程6年＋後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織・運営		一人の校長、一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	
			小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件 例) ① 関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する ② 学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする ③ 一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる	中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
免許		原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※ 当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	所属する学校の免許状を保有していること	
教育課程		・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性・体系的に配慮がなされている教育課程の編成		
特別 教育課程 の	一貫教育に必要な独自教科の設定	○	○	○
	指導内容の入替え・移行	○	○	×
施設形態		施設一体型 ・ 施設隣接型 ・ 施設分離型		
設置基準		前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用	
標準規模		18学級以上27学級以下	小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下	
通学距離		おおむね6km以内	小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内	
設置手続き		市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	

2



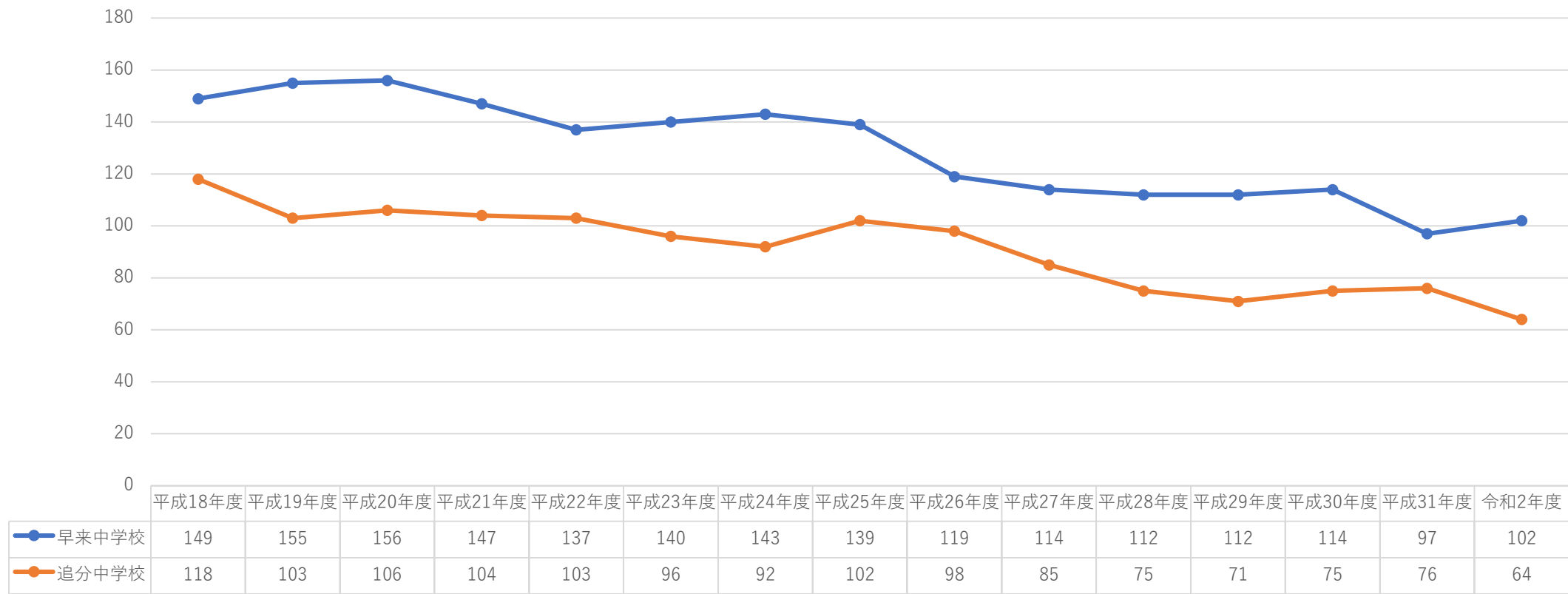
追分地区は、「小中一貫型小学校・中学校」の「併設型小学校・中学校」

安平町の児童・生徒の推移（小学校）



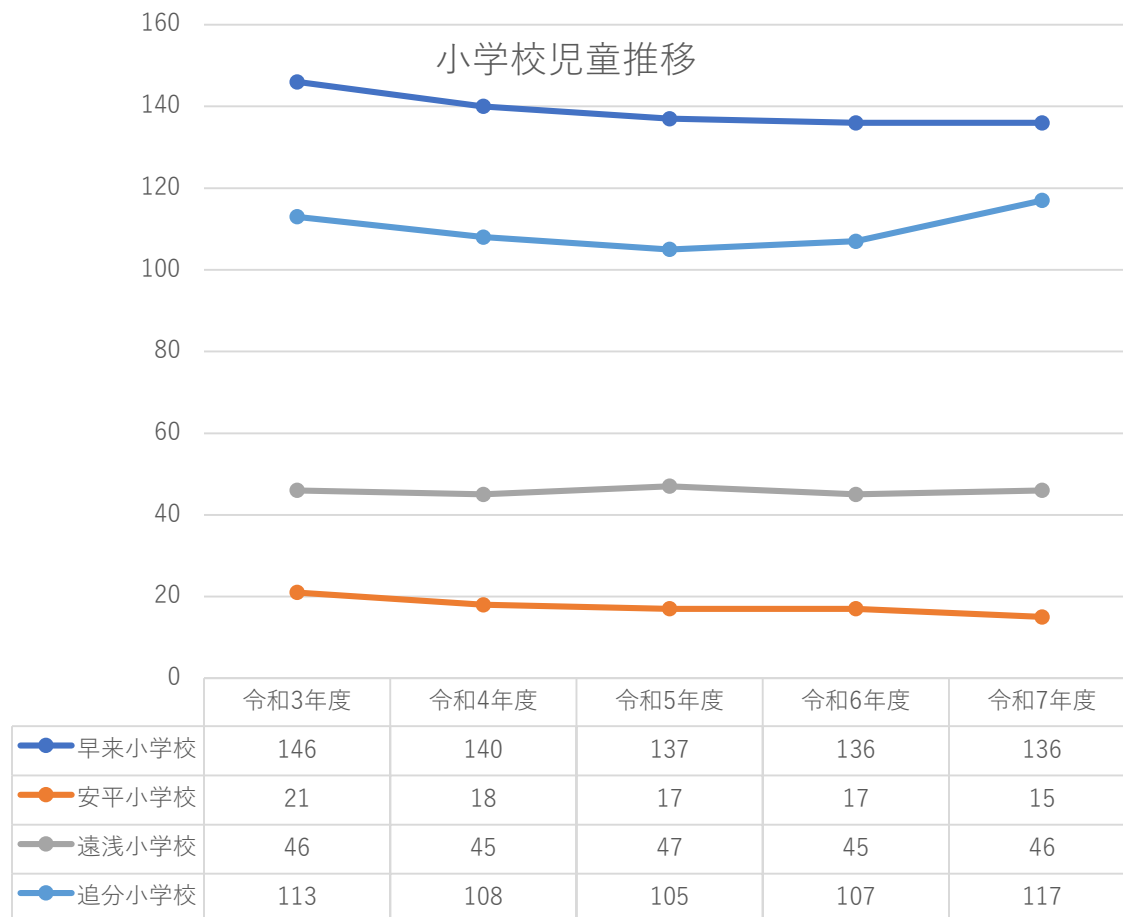
安平町の児童・生徒の推移（中学校）

中学校生徒数推移

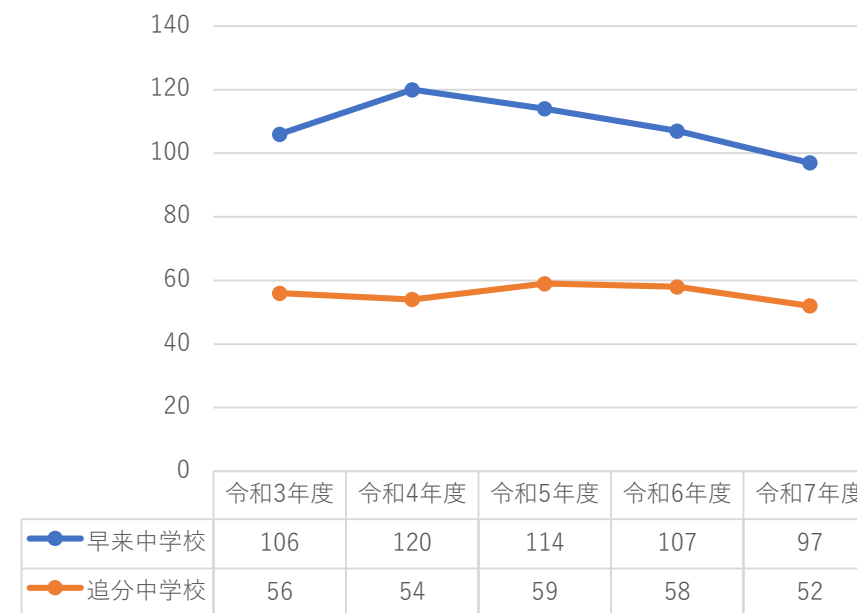


安平町の児童・生徒の推計

小学校児童推移



中学校生徒数推移



概算事業費

【概算事業費】			(単位：千円)	【財源内訳】			(単位：千円)
項 目	金 額	主な内容		項 目	金 額	主な内容	
新築工事	2,984,310	建築主体工事、電気設備工事、機械設備工事、外構工事		国庫支出金	1,076,624	学校施設環境改善交付金、公立学校施設整備費国庫負担金、災害復旧費国庫負担金	
解体工事	202,000	早来小学校解体工事		地方債	2,194,200	過疎対策事業債	
新築別途工事	4,300	防犯設備、電話回線、音楽室映像音響設備		寄付金	243,039		
備品	59,550	暗幕・カーテン、移動家具、スタジオ用機材		一般財源	110,575		
設計等委託業務	285,339	基本計画業務、基本設計業務、ICT環境基本設計業務、敷地測量業務、教育環境計画支援業務、実施設計業務、ICT環境実施設計業務、システム製造業務、申請手数料、工事監理業務		合計	3,624,438		
校内LAN構築	42,900	校内LAN構築					
デジタル機器	25,350	モニター、デジタルサイネージ、電子黒板、プロジェクター					
その他	20,689	移転業務、機械警備撤去費、旅費、駐車場使用料、廃棄物処理、講師謝礼、新聞折り込み					
合計	3,624,438						

注) 記載している金額について
①令和2年度まで：決算額
②令和3年度：予算額
③令和4年度以降：概算額（実施計画で提出している金額）

スケジュール

令和 3 (2021) 年

7 月 工事開始

令和 4 (2022) 年

10月 工事終了

12月 早中・早小 引越し作業

令和 5 (2023) 年

1月 早中・早小 新校舎での授業開始

4月 義務教育学校として開校

今後検討していく事項

- 校名 ～ 安平町立〇〇義務教育学校や安平町立〇〇学園 等
- 校区 ～ 安平町早来地区において、どの小学校区までを対象とするか
- 校則 ～ 新しくするか、既存のものとするか 等
- 服装（制服など） ～ 新しくするか、既存のものとするか 等
- 校章、校歌 ～ 新しくするか 等
- 学校行事 ～ これまで小・中別々の行事をどうまとめるか 等

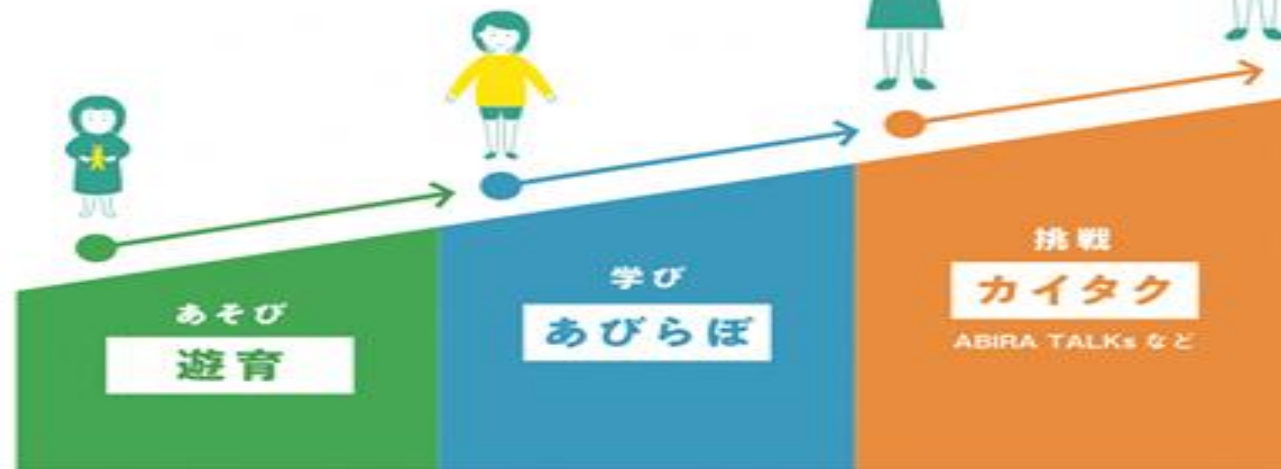
※決まり次第、随時町HPなどでお知らせしていきます。

説明会等実績（発災後2021.6.29まで）

実施内容	回数	概要
ホームページ掲載	4回	再建に向けた概要、各種計画策定について
アンケート	3回	新しい学校について、学校選択制について
義務教育学校設置に向けた会議	15回	設立協議会、開校準備委員会、設立運営会議 等
一般住民参画会議	18回	新しい学校を考える会、新しい学校をつくる会
議会・教育委員会、総合教育会議	28回	再建関係が議題となった回数
学校教職員参画会議	6回	教職員説明会、教職員検討会、町教研
学校運営協議会	5回	合同学校運営協議会 等
広報	11回	再建関連記事掲載
住民説明会	27回	再建関連、学校選択制関連
チラシ配布	17回	説明会開催案内、説明会概要報告 等

あびら教育プラン（全体像）

安平町では、「遊育」「学び」「挑戦・チャレンジ」という3つの事業によって全ての世代に教育機会を提供しています。教育プランでは、子どもから大人まで「豊かに生きるために挑戦する人」になることを応援しています。



遊育推進事業



学びサポート事業



町民チャレンジ応援事業

あびら教育プラン（全体像②）

遊育事業

あそぶ(準備期)

対象: 幼児～小学校高学年

- ・好奇心や感性を育む。
- ・学びや挑戦の土壌をつくる。



あびらぼ(公営塾)

学び、広げる(拡大期)

対象: 小学校高学年～中学生

- ・視野を拡大する。
- ・挑戦の方法を知る。



カイトク事業
(チャレンジ応援事業)

挑戦する(実戦期)

対象: 小学生～大人

- ・興味関心に基づき挑戦をする。
- ・学びと社会を接続する。



あびら教育プラン（遊育）

町内にある環境（自然等）を活かした「遊び」を通じて協調性、表現力等の非認知能力や体力の向上を図りながら、子どもの心身を育む



遊育推進事業



あびら教育プラン（学びサポート）

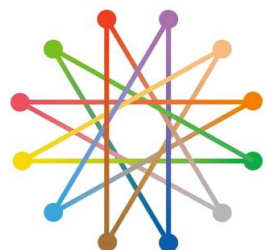
『あびらぼ』

- ・ 学校とは違う学びの場で、知的好奇心や探究心を高める。
- ・ いろんな世界観を通じて興味関心を広げ、
自分の夢や目標に向かって踏み出せる場
を創り出す取組み

（関心あるテーマを
深掘する探究授業）

（いろんな世界観・大人に
出会い興味関心を広げる）

（空港で海外からの
来道客ヘインタビュー）



あびらぼ

Abi Lab

学びサポート事業



あびら教育プラン（カイトク）

町民が主体となり行うプロジェクトに対してコーディネートやサポートを行いながら、**町民のチャレンジを応援する。**（野球少年団 室内練習場）



（復興ボランティアセンターによる 未来への町の入口となる素敵なコミュニティスペースを整備）

『キミ旅』
子どもたちが作る海外実習プログラム



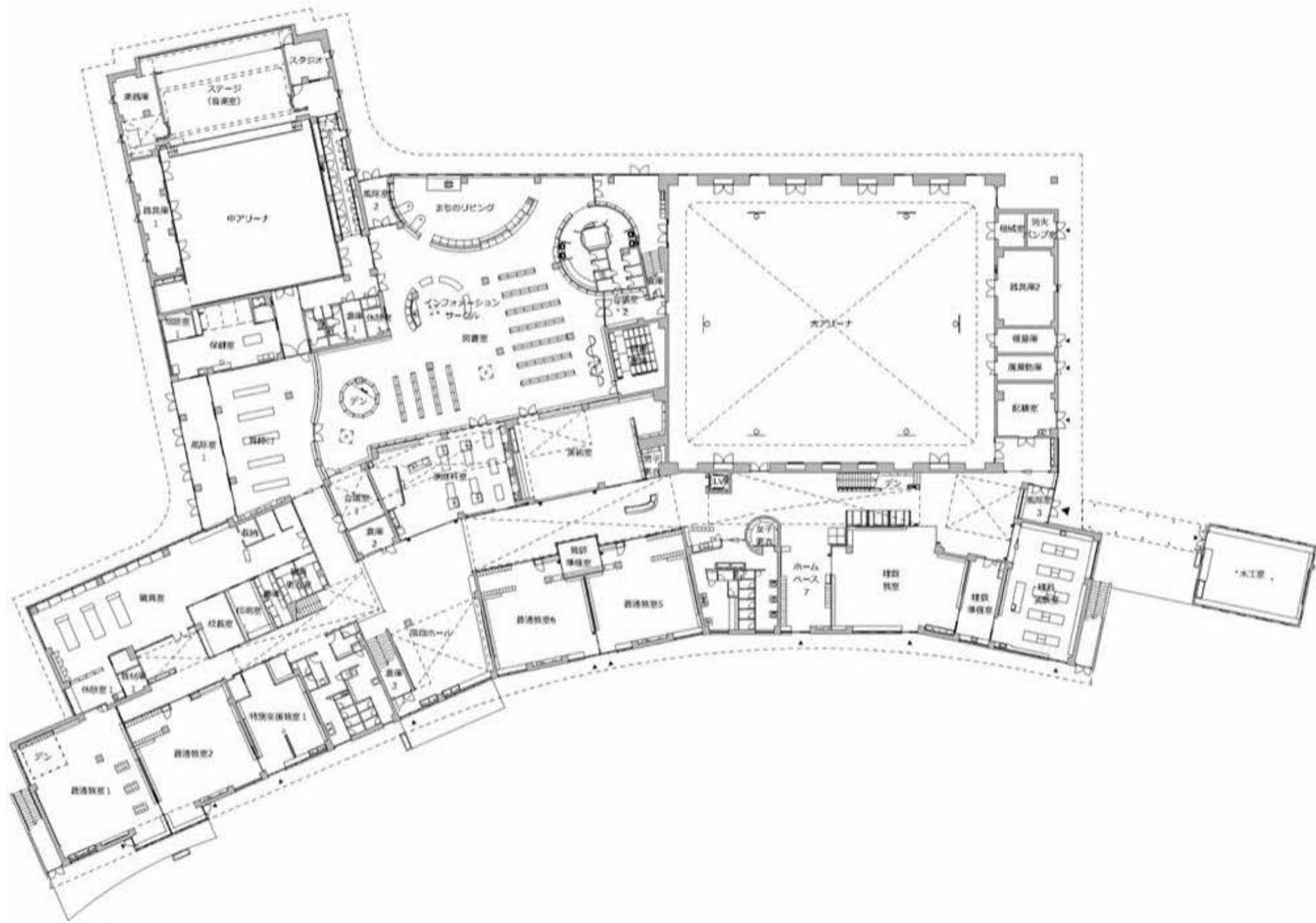
町民チャレンジ
応援事業

CFCI（子どもにやさしいまちづくり）

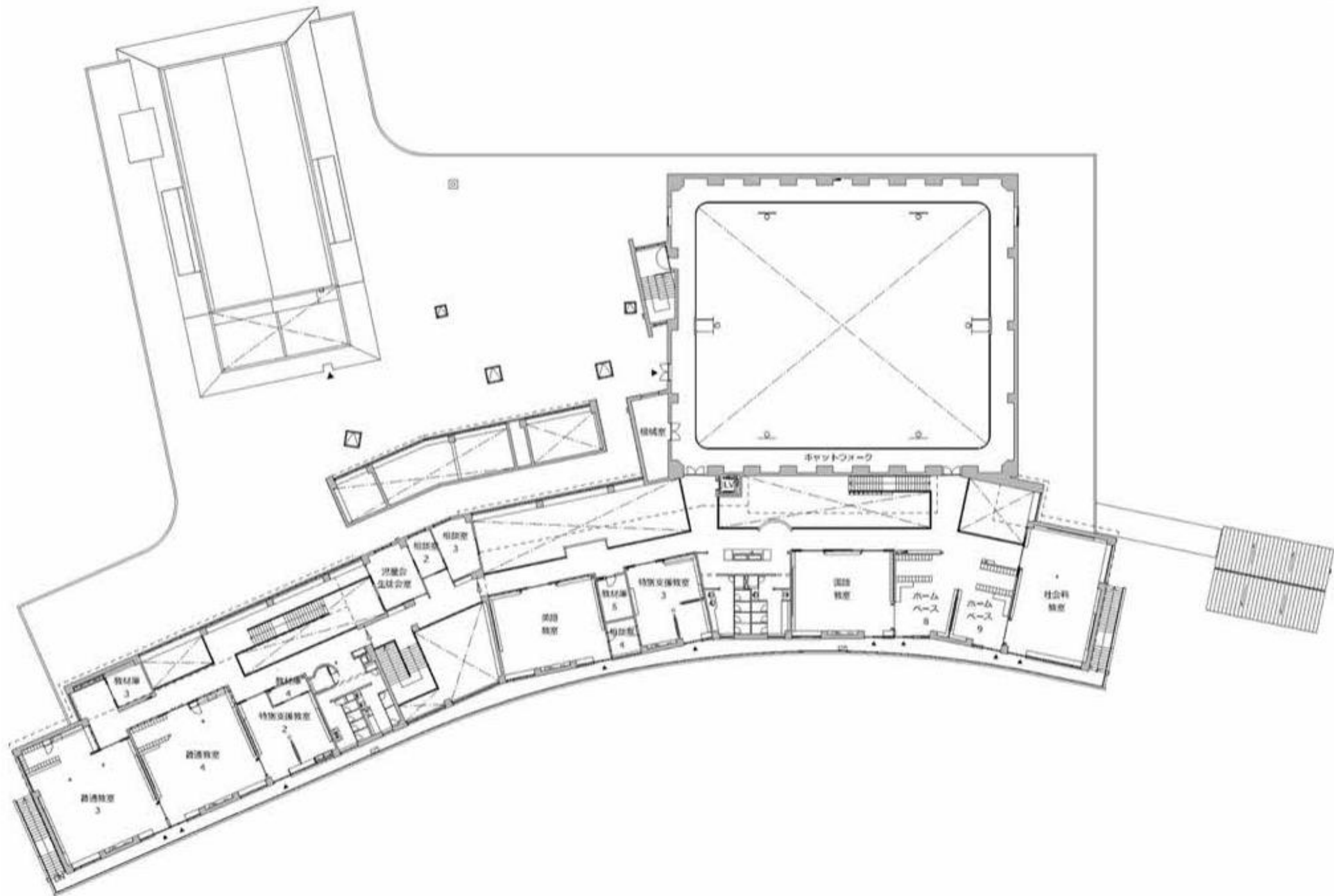
- ・日本ユニセフが進める『子どもにやさしいまち』検証自治体当町のほか全国5自治体が実施
- ・子どもの社会参画を組織的に推進する。
- ・子どもたちの意見を踏まえた「新しい学校づくり」や、子どもたちの意見に基づき運営される「あびら教育プラン」は良き実践例である。



学校施設の全容（1階）



学校施設の全容（2階）



実施設計概要図

(仮称) 安平町立早来小学校・中学校実施設計報告
自分が“世界”と出会う場所

安平町の
「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、
支え、支えられる中で、
学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」など
「異年齢、多世代」の人達、たくさんの「本物」と出会
い、
さらに
「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」「夢」
と出会い、
“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく
みんなの学校

コンセプトにある
「自分」とは子どもたちのみを指すものではない。
「世界」とは国外を指しているわけではない。
地域とのつながりが深い安平町の良さを大切に捉え、
子どもたちだけではなく、地域の人々も
多様な考え方や価値を学び、あらたな領域や世界と
出会うことができる学校という想いが込められている。
人は一生学び、一生育つ。
子どもたちも保護者も地域住民も、
みんなにとっての出会いが広がり、
出会いによって人々がつながる学校を創りたい。
「自分が“世界”と出会う場所」というコンセプトは、
子どもたちを中心として、高齢者を含む大人までもが
豊かに学び共に育つ場所を創ることを目指すものである。

観察の庭

新しい学校は開放・共用・専用の
3つのエリアから成り立っています。

- 開放エリアは
地域の人でも使うことができます。
- 共用エリアは学校が使っていないとき、
地域の人でも使うことができます。
- 専用エリアは学校が主に使い、
利用者、場所、時間を限って
地域の人でも使うことができます。

セキュリティラインをはっきりさせ、
ICT技術を活用して学校・地域両方の
人々が安全に使える学校とします。

1.学校の中心「みんなの図書室」

図書室が学校の中心になります。学校の専用エリア、
地域の人々とシェアする共用エリアどちらにも接し、
地域の人でも学校もいつでも使うことができるエリアです。
本を通じて人々の居場所と交流の場となります。

6.“世界”とつながる学校

どこでもいつでも誰とでも
つながることが可能なICT技術を用いて、
多様で共創的な授業ができる
情報通信環境を整えます。

5.まなびの魅力を伝える教科教室

中学は各教科ごとの専用教室と生徒の居場所となる
HB（ホームベース）からなります。教科専用教室
は
各教科の資料などが常時見て触れることができ、
まなぶことの魅力を生徒に伝える場になります。
HB（ホームベース）に隣接する教科教室は、
各クラスのCR（クラスルーム）にもなります。

4.なんでもできる大きな教室

小学校の教室は通常の教室の約2倍の広さです。
全員で、グループで、友達同士で共創的な
授業が展開できます。
自由にレイアウト可能な大きさです。

3.教室をつなぐ光のプロムナード

ハイサイドライトから光が降り注ぐ空間です。
9学年と特別教室を結び、授業や展示、
活動が展開する場となり、子どもたち同士が
直接ふれあって学習（共創）する空間です。

7.学校を象徴する共創空間

開放・共用・専用、それぞれの活動が透明なガラスを
通して見るすることができます。
デジタルテクノロジーを使い、見えるけど分かれている。
分かれているけど一緒にいる。つながれる。
学校全体を「多様性から生まれる共創空間」として
設計した、この学校を象徴する一体空間です。

2.みんなで使う共用エリア

大アリーナ、中アリーナ、音楽室、創作
アトリエ、キッチンスタジオ、音楽スタジオ
ミーティングルームなどは学校と地域の人々が
互いにシェア（共創）できる場所です。
場所をシェアすることで、
地域と学校の活動をつなぎます。
ICTを活用した予約システムを導入し、
学校も地域も互いにスムーズに安全に
活用できることを可能にします。

